世界自然遺産に学ぶ屋久島の教育

- SDG s 達成に向けた屋久島型ESD教育の取組--2021年度 Ver-

第12回世界遺産学習全国サミットin屋久島報告書













令和4年3月 屋久島町教育委員会



発刊に当たって

異文化衝突や人権侵害等といった社会的問題,地球温暖化や海洋ごみ問題等に象徴される環境問題,貧富格差をはじめとする経済的な問題,紛争や戦争など,今,わたしたちの生きる社会は,様々な課題に直面しています。その多くの課題を解決し,今を生きる者のみならず,子々孫々に至るまで,みんなが安心して暮らすことのできる社会をつくるため,社会的公正の実現や自然環境との共生を重視した新たな開発の在り方が求められています。これが「持続可能な開発」であり,その実現は人類にとって喫緊の課題となっています。この「持続可能な開発」が実現できるかどうかは、未来を創るわたしたち一人一人次第なのです。そのために重要になるのがESD(持続発展教育)であると私ども屋久島町は考えています。

SDGsやESDは、地球上で起きている様々な問題が、遠い世界で起きていることではなく、自分ごととして捉えることが大切です。地球規模の持続可能性に関わる問題は、目の前にある地域社会の問題ともつながっています。だからこそ、身近なところから行動を開始し、学びを実生活や社会の変容へとつなげることがSDGsやESDの本質です。

さて、令和3年度は、令和4年2月10日~12日の3日間において、「第12回世界遺産学習全国サミットin屋久島」を開催しました。サミットに向けて、ここ屋久島町において、これまでの各校の取り組んできた活動を再度見つめ直し、GIGAスクール構想等の時代の要請を踏まえながら、実践を積み重ねてきました。

本サミットでは、「屋久島から持続可能な社会の創り手となる子供たちを育成するために、世界自然遺産や伝統文化等を素材にした学習を通して、『故郷屋久島への思い』を育みながら、『学び、考え、行動する力』と『自尊感情』を高め、『生きる力』を育成する。」という基本的な考え方を基に、各校が各校の強みを生かし魅力ある屋久島ならではの教育活動や実践を示してくれました。また、ICTを活用し、子供たちのこれまでの取組を全国へ発信することもできました。2030年を見越した屋久島型ESDの新たな形を示すことができたと考えています。

また、人材活用の視点から、JICAで国際協力に取り組んで来られた杉下真絹子様をESDグローバルアドバイザーに迎え、ここ屋久島から国際的な学びや活動を子供たちに届ける環境づくりを進めることができました。さらに、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス環境情報学部長谷部葉子准教授との間に「次世代を担う人材育成に向けた連携協力協定」を結び、新たな取組も令和4年度から始まる予定です。本サミットの価値は、今後の新たな連携を基に、示していければと願っています。

最後に、本実践集の中において、各校の具体的な実践がまとめてあります。また、 巻末には本サミットの報告書も掲載しています。多くの方々に御高覧いただき、御 意見、御指導をいただければ幸いです。最後になりましたが、本冊子を作成するに 当たり、御尽力いただいた皆様に心から感謝を申し上げ、発刊のあいさつといたし ます。

令和4年3月吉日

〇 発刊に当たって〔屋久島町教育委員会教育長 塩川 文博〕

I 名 1	S学校の実践 宮浦小学校	
		郷土に学び、故郷を誇れる宮浦っ子の育成 -第5学年「地域の伝統・文化を守ろう」より-
2	一湊小学校	
		ふるさとを愛し, ふるさとに生きる一湊っ子の育成 〜郷土教育・環境学習の実践を通して〜
3	永田小学校	
	人・自然	・地域に誇りをもち,夢や希望を実現しようとする永田っ子
4	金岳小・中雪	
	—Е	口永良部島を持続可能な島へ SDの取組— 世界遺産学習全国サミットin屋久島より
5	小瀬田小学	校 ————————————————————————————————————
		故郷に学び,小瀬田・屋久島を愛する子供の育成 〜屋久島型ESDの視点をもった学習の実践を通して〜
6	栗生小学校	
		自ら考え、協働し、豊かなに表現する子供の育成 〜SDG s の視点に立った学習を通して〜
7	八幡小学校	
		自ら学び,考え,行動する力を育成するESDの実践

8	神山小学校				
	自ら気付き、考え、実行する児童の育成 〜総合的な学習の時間を核としたカリキュラム・マネジメントを通して〜				
9	安房小学校				
	ふるさと屋久島を大切に思う子供たちの育成を目指して 〜第4学年総合的な学習の時間「水に学ぶ」より〜				
10	中央中学校				
	屋久島健司育成を目指したESDの実践				
11					
	屋久島の自然を,産業,歴史,伝統文化を知り,郷土を愛する生徒の育成 -屋久島らしさと本校の特色を生かした取組を通して-				
12	安房中学校				
	郷土を愛し未来を拓く屋久島型ESDの実践 〜SDGsとの関連〜				
-	B.告書 				
1 2	世界自然遺産学習全国サミットin屋久島連報告書 —————————— ESDグローバルアドバイザー活動報告 ————————————————————————————————————				
3	ESDアドバイザー活動報告				
4	森瑞樹(長谷部研ゼミ生)活動報告				
5	後藤ひまわり(長谷部研ゼミ生)活動報告				
6 7	令和4年3月の町報掲載ページ				
-	・多加有の戸 その他				
	- Marian Barana Baran				

I各学校の実践

「郷土を学び、故郷を誇れる宮浦っ子の育成」

~ 第5 学年総合的な学習の時間「地域の伝統・文化を守ろう」より~

屋久島町立宮浦小学校

1 学校紹介

本校は、屋久島の東部に位置しています。校区内には、トッピーやフェリー 屋久島2が入港する宮之浦港があり、屋久島の玄関口の1つです。

子どもたちが住む「宮之浦」・「楠川」・「楠川」には、多くのすぐれた伝統文化があり、世界自然遺産に登録されたすばらしい自然もあります。そこで、子どもたちに、地域の方から直接学んだり、さまざまな体験活動や調べ学習を行ったりすることを通して、「世界自然遺産屋久島にある地域のよさやすばらしい伝統・文化についてさらに知り、自らの故郷に誇りを持つことができる」ことを目標に総合的な学習や教科・行事などをESDの視点で計画し、実践を行っています。

2 これまでの取組について

郷土の自然や文化に親しみ,歴史や産業などの理解を深める学習活動(生活 科及び総合的な学習の時間を核とした学習)を通して,郷土愛や自律心,判断 力,責任感などの人間性を育み,人,社会,自然環境との関係性を認識し,自 ら学び、考え,行動する力を育成することを目指しています。

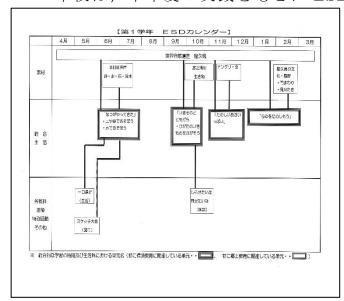
全体構想図は,以下のとおりです。各学年での総合的な学習や生活科の学習及び各教科,道徳科等の学習において,活動テーマである「身近な環境のよさに気付き,地域・屋久島に誇りを持ち,未来へ夢や希望を持つ宮浦っ子」に基づいて取組を進めています。

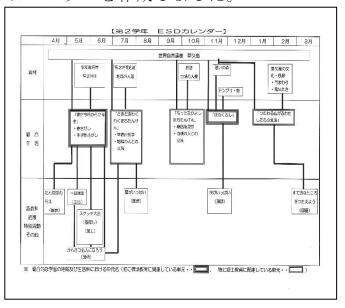
子どもたちは、学習を通して自分たちの住む屋久島の素晴らしさに気付き、 故郷である屋久島に誇りを持つことができるようになってきています。

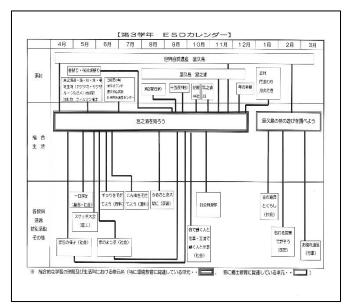
宮浦小学校 ESD 全体構想 ※ESD (Education for Sustainable Development) 持続可能な社会づくりのための担い手づくりをめざす教育 県及び地区・町の教 児童の実態 本校の教育目標 育目標及び努力点 地域・保護者の願い 自ら学び、豊かな心を持って、たくましく生きる宮浦の子 教師の願い どもの育成 【宮浦小 ESD の目標】 郷土の自然や文化に親しみ、歴史や産業などの理解を深める学習活動を通 して、郷土愛や自律心、判断力、責任感などの人間性を育み、人、社会、自 然環境との関係性を認識し、自ら学び、考え、行動する力を育成する。 目指す児童の姿 進んで考えをつくり、生かす子ども 人にやさしく、ものを大切にする子ども 健康で、ねばり強く取り組む子ども 進んで考えをつくり、

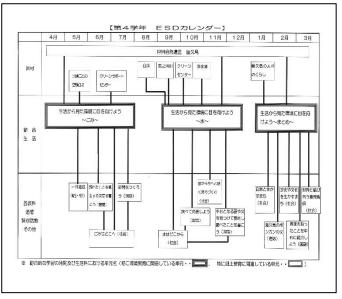
【活動テーマ】

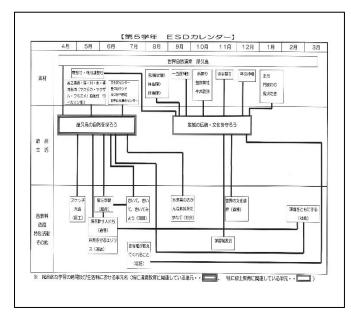
身近な環境の良さに気づき、地域・屋久島に誇りを持ち、未来へ夢 や希望を持つ宮浦っ子 3 屋久島型ESD教育の年間指導計画 本校は、本年度の実践をもとに ESD カレンダーを作成しました。

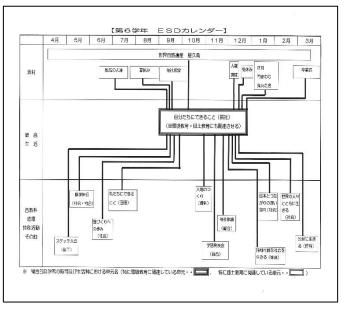












4 実践紹介

「地域の伝統・文化を守ろう」

屋久島町立宮浦小学校

本単元「地域の伝統・文化を守ろう」は地域に伝わる伝統文化や行事について、地域の方から話を聞いたり、実際に踊りを練習したり、披露したりすることで郷土愛を育むことを目指す単元です。

また、ICT を活用して、動画を撮影し、世界遺産サミット i n屋久島でこれまでの取組を発表することで、自分たちの住む地域の伝統文化の魅力を伝える機会を確保しながら、情報活用収集能力や活用能力の育成にもつなげます。 SDGs 関連: 4 、 12

1 単元名

地域の伝統・文化を守ろう

2 単元目標(ねらい)

- ア 地域行事等の体験やふれ合う活動を通して、地域の伝統・文化への気付きを深め、自分やグループで取り組みたい課題を 設定することができる。(課題設定の能力)
- イ 自分で調べてみたい課題や疑問を解決しながら、工夫してまとめたり、表現·発信したりしていく問題解決的な学習の仕方を身に付けることができる。(課題解決の能力)
- ウ 地域の伝統・文化にこめられた思いや願いを人々のくらしと結びつけながら考えることができる。(ものの考え方)
- エ 地域の伝統・文化について計画的に調べ、自分なりに工夫してまとめたり、調べたいことを相手に分かりやすく発表したりすることができる。(主体的・創造的な態度)
- オ 地域の伝統・文化の理解を深め、尊重する大切さに気付く。

3 活動計画

学習	ナル 岩 辺 江 和	時	活動形態	संस्थ
過程	主な学習活動		(場所)	留意点
気付く	1 オリエンテーション・ 地域の伝統・文化について知っていることを話し合う。・ 伝統文化の共通体験をする。	2	一斉 (教室) (多目的ホール) (体育館) など	・ 宮浦小校区の行事に参加した体験を振り返らせたり、伝統的な行事や有名な文化財などを紹介したり地域の伝統・文化に目を向けさせる。
計画	2 個人テーマを決める。 《例》 ○宮之浦の伝統文化 ○楠川の伝統文化 ○検別の伝統文化 ○食文化 ○祭り ○盆踊りについて(実際の踊りも含めて) ・ まとめ方や表現方法を決める。 《例》 ・ポスター作り(掲示物) ・発表(パワーポイントの活用) ・動画の撮影(タブレットの活用) 等	2	一斉 (教室) 個人 グループ など	 個人の疑問や課題について教師がそれを認め,テーマに向けて方向づけができるように支援する。 テーマによって,グループ作りを工夫する。 活動方法やまとめ方を考えさせる。 タブレットなどの ICT の活用を図る。
追究	 3 テーマの追究活動 ・ 地域の伝統文化を守っている方から話を聞く。 ・ 本・資料・取材、インターネットなどテーマごとの個人やグループ活動で追究していく。 ・ 実際に保存会の方々に来ていただいて、踊りの練習に取り組む。令和3年度は宮之浦おた踊り。 	13	グループなど (教室) (学校図書室) (体育館) など	・ 活動場所と活動の方法,時間については、活動前に明確に知らせて、今後の活動について見通しを持たせる。 ・ 追究してきた内容が明確に伝わるように、まとめ方や発表方法を工夫させる。 ・ 保存会の方々と連携し練習を進める。

表現深める	4 まとめ(表現) ・ 感じたことや考えたことをくわしくまとめ、自分の意見をもとに友だちと意見を練り上げる時間とする。 5 発表リハーサル ・ まとめた意見を踊りの前に披露するための練習をする。	3 2	グループ (教室)など	パワーポイントの活用など 発表の工夫をする。発表リハーサルを通して、新 たに気付いたことを加えてま とめさせ、さらにまとめ方や 発表方法を工夫させる。
まとめ	6 研究発表会 ・ 学習発表会で、これまで練習に取り組んできた宮之浦おた踊りを披露する。 ・ 地域の伝統文化を守るために、自分たちにできることを考え、発表する。 7 学習のまとめ ・ これからの生活の中で自分たちはどんなことを実践することができるかを考える。 ・ お世話になった方に感謝の手紙を書く。	1	(体育館) グループ	 学習発表会を通してテーマ ごとに聞く入を意識して、分かりやすく発表する。 これからの生活の中で自分たちはどんなことを実践することができるかを考えるとができるかを考えてきる。 世界遺産サミットin屋久留の取組を発表する。

4 活動の様子



【おた踊りについての講義の様子】 保存会の方を招き,宮之浦おた踊 りについてお話しをしていただきま した。



【道具の製作の様子】 保存会の方を招き,おた踊りの道 具を製作している様子です。



【練習の様子】 保存会の方を招き,全員で宮之浦 おた踊りの練習に取り組んでいる様 子です。



【踊りの披露の様子】 学習発表会において宮之浦おた 踊りを披露しました。

5 成果と課題

成果として、本単元で宮之浦おた踊りを練習することを通して、子どもたちは、自分たちの住む宮之浦にはすばらしい伝統があり、今後も守り続けていかなければいけないことに気付くことができた。

課題としては,今後もこの意識が続くようにどのような取組を進めていけばよいかについて,取組を具体化する必要がある。

ふるさとを愛し、ふるさとに生きる一湊っ子の育成 ~郷土教育・環境学習の実践を通して~

屋久島町立一湊小学校

1 はじめに

屋久島型 ESD の基本的な考え方として、「屋久島を持続可能な社会にするために、世界自然遺産を素材にした学習を通して、直接体験(自然・文化)と地域とのつながりから『学び・考え・行動する力』と『自尊感情』を高め、『生きる力』を育成する。」とある。これを受けて、本校では ESD 教育の目標を、「郷土の自然や文化並びに歴史や産業の理解を深める学習を通して、持続的自立心、判断力、責任感を育み、人・文化・自然との関係性を認識し、自ら学び、自ら考え、行動する力を育成する。」と定め、この目標に迫るために各教科と関連させながら総合的な学習の時間を核として ESD 教育を進めている。

これらを踏まえた上で目指す児童像を下記のように設定し、「郷土教育」と「環境教育」を中心に ESD 教育の実践を行った。

2 目指す児童像

- (1) 屋久島(一湊)の人・文化・自然に意欲的に関わり,自分とのつながりや郷土のすばらしさを学ぶ子供
- (2) 屋久島(一湊)の人・文化・自然について学び、感じたことを表現したり発信したりする子供
- (3) 屋久島(一湊)とそこで育つ自分に誇りと自信を持ち、未来への夢や希望を持つ子供



【ウミガメの放流】



【一湊里めぐり】

第 1・2 学年 E S D 教育レポート

単元名	「一湊川探検隊」	数 5時間
	○ 一湊の自然に触れ、いろいろな生物が住んでいることに気付く。)
ねらい	○ 川には、ごみがあることに気付く。	
	○ 一湊の自然を守っていこうとする意欲をもつ。	
主な学習活動	 1 一湊川付近の写真を見て調べる。 ○ 川付近の写真を見ながら。どんな生き物がいるのかを予想する。 ・ テナガエビ ・ カエル ・ ハゼ ・カニ ・ 図鑑で調べる。 2 川で遊ぼう。 ○ バディを組む。 ○ 遊んでいい場所と危険な場所を確認する。 ○ 川の生きものを探す。 ○ 川の先に何があるのか考えさせる。 3 絵日記に思い出をまとめさせる。 ○ 写真を見て書きたいことをまとめる。 ○ 学校応援団の方にお礼のお手紙を書く。 	
成果と課題	 (1) 成果 ○ 1学期に学習した生活科「生き物を育てよう」での学習を生活について調べ学習を行うことができた。 ○ 地域の学校応援団の方のご協力のおかげで、地元の方しか知ていただいた。また、安全管理を充実させることができた。 ○ 実際に川に行って遊ぶことを通して、川の危険についても併ができた。 (2) 課題 ● 夏場は、熱中症に気をつける必要がある。 ● 生き物を捕まえるのが難しく、学校応援団の方が主になって供たちが自分で捕まえる体験を十分にさせる必要があった。 	らない箇所を教えせて学習すること

第3・4学年 総合的な学習の時間

「一湊の自然探検隊」	時数	2 7 時間	
1 ウミガメを取り巻く自然環境について調べたり、その環境を守っていくため 動を行ったりしながら課題を解決していく。 2 自分たちの調べたことをまとめ、これからも一湊の自然を守っていこうとす			
欲をもつ。			
 通しをもたせる。 2 ウミガメやSDGsについて調べる計画を立てる。 ○ 疑問や経験から課題を検討する。 ○ 解決のための計画をたてる。(内容・時間・方法・ 3 調べる・関わる・体験する 			
る。 4 調べたことをまとめる。		, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	
○ 調べたことをまとめたり、学習発表会で劇にして発表 他校との交流 解化場の準備		場への卵入れ	
ウミガメの放流 学習発表会での発表 5 ウミガメを守るための活動を考える。 ○ これまでの活動を振り返り,自分にできることを考え ・海岸清掃 ・啓発活動		まとめる	
 (1) 成果 ○ 産卵観察→孵化調査→放流→調べ活動→発表→まとめの活動を通す中で、ウミガメのことだけでなく、それを取り巻く環境の大切さにも気付き、環境問題や環境を守ることの大切さを発信できることができた。オンラインで、取組について他校と交流することができた。 (2) 課題 ○ ウミガメの調査について、関連施設へと連絡調整を上手く取り、計画的に進めていく必要がある。 ○ 孵化場への卵入れから、孵化までの期間、夏季休業に入るので、児童が孵化場を管理したり、調査したりすることが難しい。 ○ SDGsの視点から、学んだ事を他の教科や活動に生かしていく必要がある。身 			
	動を行ったりしながら課題を解決していく。 2 自分たちの調べたことをまとめ、これからも一湊の自然 欲をもつ。 1 オリエンテーションをする。 ○ ウミガメやSDGsについて知っていることを話合い 通しをもたせる。 2 ウミガメやSDGsについて調べる計画を立てる。 ○ 疑問や経験から課題を検討する。 ○ 解決のための計画をたてる。(内容・時間・方法・役割 調べる・関わる・体験する ○ ウミガメやSDGsについて調べたり、観察会・孵化 る。 4 調べたことをまとめる。 ○ コストニとをまとめる。 ○ にれまでの活動を表し、学習発表会で劇にして発表 ・海岸清掃・啓発活動 (1) 成果 ○ 産卵観察→孵化調査→放流→調べ活動→発表→まとめの活 のことだけでなく、それを取り巻く環境の大切さにも気付 ることの大切さを発信できることができた。オンラインで流することができた。 (2) 課題 ○ ウミガメの調査について、関連施設へと連絡調整を上手 いく必要がある。 ○ 孵化場への卵入れから、孵化までの期間、夏季休業に入 管理したり、調査したりすることが難しい。	1 ウミガメを取り巻く自然環境について調べたり、その環境を守っ動を行ったりしながら課題を解決していく。 2 自分たちの調べたことをまとめ、これからも一湊の自然を守って欲をもつ。 1 オリエンテーションをする。 ○ ウミガメやSDGsについて知っていることを話合い、今後の通しをもたせる。 2 ウミガメやSDGsについて調べる計画を立てる。 ○ 疑問や経験から課題を検討する。 ○ 解決のための計画をたてる。(内容・時間・方法・役割等) 3 調べる・関わる・体験する。 ○ ウミガメやSDGsについて調べたり、観察会・孵化調査・放る。 4 調べたことをまとめる。 ○ 調べたことをまとめる。 ○ 調べたことをまとめたり、学習発表会で劇にして発表したりすがよった。 ○ 正れまでの活動を振り返り、自分にできることを考える。・海岸清掃・ 序発活動 (1) 成果 ○ 産卵観察→孵化調査→放流→調べ活動→発表→まとめの活動を通ずのことだけでなく、それを取り巻く環境の大切さにも気付き、環境ることができた。オンラインで、取組に流することができた。 (2) 課題 ○ ウミガメの調査について、関連施設へと連絡調整を上手く取り、にく必要がある。 ○ 孵化場への卵入れから、孵化までの期間、夏季休業に入るので、管理したり、調査したりすることが難しい。 ○ SDGsの視点から、学んだ事を他の教科や活動に生かしていく	

第5・6学年 総合的な学習の時間

カリ・0子	年の総合的な学習の時間
単元名	「世界遺産 屋久島(屋久島ゲームを作ろう)」 時数 18時間
	1 身近な自然環境や環境問題に関心をもち、自分達の生活と結びつけることで、その良
ねらい	さや問題点に気付き進んで働きかける実践力を養う。
44.54	2 地域の一員として、地域の良さや問題点に気付き、よりよい地域をつくろうとする
	態度を養う。
	1 オリエンテーションをする。
	(1) これまでの学習から,屋久島や一湊の魅力や課題について知る。
	・ 海の美しさと汚染 ・ 川の美しさと汚染 ・ 動植物の固有種と被害
	(2) 全体テーマを話し合う。
	「屋久島そして一湊の魅力を手作りゲームを通して紹介しよう。」
	2 屋久島と一湊の魅力そして自然環境を守るための取り組みを調べ、まとめる。
	○ 宿泊学習を通した環境学習 日本自の自然としたの理論のの関わりな考えて
	○ 屋久島に関する図書 屋久島の自然と人々の環境への関わりを考える。 (家的学習とり)
	○
	3 屋久島そして一湊の魅力を広げるめに自分たちが作れるゲームについてグループを
).	作り、実践の計画を立てる。その後、各自たちで進めていく。
主な学習活動	○ 屋久島すごろくゲーム
	○ 屋久島パズル
	○ 屋久島カードゲーム
	内容・方法・ルール等を話し合う。(グループ毎)
	4 屋久島ジュニア検定に参加する。
	○ 屋久島ジュニア検定に取り組むことで、屋久島を多角的に考えることができ、郷土
	に誇りを持つことができる。
	5 作成したゲームを栗生小学校でのズーム会議や世界遺産
	学習サミットにて発表する。
	○ 作成したゲームをについて、発表の準備をする。
	○ パワーポイントでプレゼンテーション形式にまとめ,
	分かりやすく発表する。
	6 活動をふり返り, 今後どのように屋久島・一湊の魅力や
	自然を広めていきたいか,そして下学年にどう伝えていくか意見をまとめる。
	(児童の感想より)
	○
	力があること改めて気づかされた。
	□ ○ 世界遺産学習サミットで発表したことでたくさんの反響があり、自分たちが発信で
	また喜びと意義を感じることができてよかった。
成果と課題	(1)成果
水木(床地	\1/ /4人/\

- 表現することで、自分達の活動が誰かのためになることに気付くことができた。
- 自分たちが何気なく過ごしていることを多角的な目で見ることで、自分たちが屋 久島そして一湊できることを考えることができ、屋久島の自然について考えていこ うとする態度を育成することができた。

(2)課題

○ 単発的な活動になるのではなく、他教科や学校行事・地域行事とも関連をさせながら、学校全体を通して社会参画する態度を育成したい。

「人・自然に学び、地域に誇りをもち、夢や希望を実現しようとする永田っ子」 屋久島町立永田小学校

1 学校紹介

永田岳を背景に眼前には永田の浜,そして近隣を流れる雄大な永田川に見守られた自然豊かな本校。「いなか浜」や「前浜」は、ラムサール条約登録地で、ウミガメの産卵地としても有名である。

子どもたちにおいては、「独り立ちできる子ども」を目指し、「かしこく・や

さしく・たくましく」を校訓として,少人数 完全複式学級の中,一人一人が主役となり, 勉学に勤しんでいる。

また、屋久島町を実施主体として、他都 道府県・他市町村の小学生が、自然豊かな 永田に居住しながら永田小学校に通学する 「かめんこ留学制度」を実施している。



2 これまでの取り組みについて

世界自然遺産である屋久島の自然を生かした環境教育,屋久島の人々が築いてきた伝統文化をテーマに自ら課題を設定し,子どもたちがよりよい屋久島の未来を目指していくことで,新たな価値観を生み出し,持続可能な社会を創造していく能力を育んできた。

このことにより一定の教育的効果が認められた反面,課題設定や課題追究において,子ども自身が多面的・総合的に考え,他者と協力しながら解決していく能力・態度の育成の在り方について,更なる改善も模索してきた。

そこで「つながり」ということをテーマに、これまでの活動を相互性の観点から捉え直した。例えば、総合的な学習の時間に実施する「いかだレース(準備を含む)」について、これまで「体験型の活動を通して、仲間との交流・協力を行うこと」が目的の中心として位置づけられていたが、澄んだ川でレースができる喜びに目を向けさせることで、環境とのつながりを意識できた。また、「ウミガメの孵化調査」、「塩作り体験」などを総括した際、子どもたちは水というテーマに視点を絞って課題を設定できた。美しい水、豊かな自然を保つためにはどうしたらよいかという課題意識をもち、土面川の調査を始め、自分たちで課題追究の手立てを見いだし、それぞれのゴールに向かって動き出した。

ここでの「つながり」とは、体験と体験をつなぐことに限らず、他者との関係、社会との関係、自然との関係など、全ての事象について捉えることにある。 さらにSDGsの観点から、地域と地球の課題を繋ぎ、全世界を視野に入れ、 将来に渡って生活を維持・発展させていくための目標をもち、一人一人の意識 や行動をPDCAサイクルの中で変革していく能力を育成している。

3 屋久島型ESD教育の年間指導計画

		十间拍导前凹	- 0 - 1
	1・2年生	3・4年生	5・6年生
	1 めざせやさい作り	1 土にふれよう(5)	1 土にふれよう (2)
	名人(4)	・さつまいも植え	・さつまいも植え
	2 わくわくどきどき	・夏の野菜植え	2 うみがめ館見学・塩作
	なが田しょうがっこ	・野菜の手入れ	り体験 (3)
	う(10)		・うみがめ館見学
_	• 学校探検	2 永田を知ろう(6)	(A年度)
学	・塩作り体験(B年度)	・うみがめ館見学	・塩作り体験 (B年度)
期		(A年度)	
	3 いかだレース(6)	・塩作り体験 (B年度)	3 修学旅行・宿泊学習・
	4 まちが大すきたん		屋久島についてまとめ
	けんたい・めざせ生き	3 水と共に生きる I	よう(4)
	ものはかせ(17)	(9)	・修学旅行 (A年度)
	• 校区探検	・いかだレース	・宿泊学習 (B年度)
	・うみがめ館見学	・次単元に向けたテー	4 永田川 PR 作戦(11)
	(A年度)	マ,ゴールの設定	・いかだレース
	5 えがおのひみつた	4 水と共に生きるⅡ	5 屋久島について知ろ
	んけんたい(24)	(16)	う(9)
	・校区外見学(A年度)	· 土面川調査	・屋久島の調査
	6 一そう小との交り	• 発表交流会	6 力を合わせてチャレ
	ゅう会 (8)	・三学期まで継続	ンジ (11)
学	・小・小交流会	5 力を合わせてチャレ	• 学習発表会
期		ンジ (8)	7 土にふれよう(4)
	7 うごくうごくわた	• 学習発表会	・作物の育成
	しのおもちゃ(18)	6 一湊小との交流会	・いもの収穫
	・おもちゃまつり(全	(6)	
	校・幼児学級参加)	7 土にふれよう(2)	8 屋久島について知ろ
	・三学期まで継続	・さつまいもの収穫	う(8)
	(A年度)	・冬野菜植え	・屋久島を発信
	8 もうすぐ2年生・あ	8 お世話になった人へ	9 土にふれよう(4)
	したヘダッシュ	(11)	・作物の育成
\equiv	(15)	・4 年生の半成人式	・一人一鉢チャレンジ
学	・新一年生との交流会	・郷土のお菓子作りに挑	
期	含む	戦	10 自分たちにできるこ
		9 お年寄りとふれあお	とを~屋久島~(14)
	9 めざせやさい作り	う (6)	・自然、人口、ごみ、観
	名人 (3)	・お年寄りに発表	光等から選択
		「あんぼや」への参加	

4 実践紹介

「水と共に生きる」

屋久島町立永田小学校

令和4年2月10日(木)

第5校時

3 · 4年1組 5名

指導者 吉冨 祐子

本単元「水と共に生きる」は、世界自然遺産の島、屋久島の魅力について、体験活動や土面川調査、環境アドバイザーの指導を根拠に、水を通して追究し、現在及び将来にわたって美しい水(環境)を保全させていくための、郷土愛を育むことを目指す単元である。

また、ICTを活用して、町内の学校をオンラインでつなぐことで、より多くの方に自分たちの住む地域の魅力を伝える機会を確保しながら、情報活用収集能力や活用能力の育成にもつなげる学習に位置づけられる。

SDGs関連:11, 14, 15, 17









1 単元名

水と共に生きる

2 単元目標(ねらい)

- (1) これまでの活動を通して、地域における課題を発見することができる。
- (2) ゴールを明確にして、追究課題を焦点化できる。
- (3) 必要な情報を収集・選択しながら調査し、まとめることができる。
- (4) 対人意識・目的意識をもち、協働的に発信することができる。
- (5) 学んだことを今後の生活に生かすことができる。

3 活動計画

0 /1 20					
過程	主な学習活動	教師の関わり	学習環境		
つかむ	1 永田の行事・活動を想起し、	・写真や動画を提示する。	タブレット		
	課題を発見する。	・関連マップや相関図を用い	の利用		
	(1)各種活動の目的を想起す	ながら課題をつなげさせ	240		
	る。	る。	4 1		
見通す	2 目的をはっきりさせ、調査	・目的と方法を明確に分ける			
	の計画を立てる。	よう指導する。			
	(1)考えを広げるため意見交	・「自然を守る」,「永田を発展			
	換をする。	させる」など、目指すべき			
	(2)時数を含めた学習計画を	ゴールを明確にさせる。			
	作る。	・講師の派遣日等,全体で学	講師の派遣		
		習することを通知する。	依頼		
調べる	3 調査計画に従って情報を収	・タブレットの操作方法や,	校外学習の		
	集する。	ルールについて指導する。	事前調査		

インターネット以外の情報 まとめ 4 情報を選択しまとめる。 学習の場や (1)発信相手に伝わりやすい る 催し物の連 収集の在り方を紹介する。 絡 表現や構成を工夫する。 ・長期休業中も継続して調査 (2) 意見交流を行い、相互にア できるよう, 方法の修正を 保護者への ドバイスを行う。 させ,情報を提供する。 周知 (3)中間発表をする。 ・学習発表会及び3校交流学 他校との打 習で中間報告会を開く。 合せ会 ・発信の方法や手順を主体的 学習コーナ 発信す 5 取組を発信する。(本時) る 「みんなで屋久島 with ESD に思考させる。 ーへの掲示 アドバイザー」 詳細 P○

令和4年2月10日「みんなで屋久島 with ESD アドバイザー」 屋久島町立安房小学校,永田小学校,八幡小学校の3校でオンラインでそれぞれ 取組について振り返る

生かす

6 学習を通して気付いたこと や自分の生き方についてキャ リアパスポートに記入する。

- ・他教科・領域との関連を図り,継続的な指導に努める。
- ・他学年に周知する。

キャリアパ スポートの 活用

4 活動の様子



【土面川調査の様子】 外部講師を招き,近く の川に住む生物を調査 した様子。



【講師の指導の様子】 指標となる生き物も例 示しながら、川の状態を 確認する様子。



【3校交流学習の様子】 安房小・八幡小とオン ラインで繋がり、中間発 表を行っている様子。

5 おわりに ~これまでを振り返って~

屋久島は素材の宝庫であり、子どもの発想は大人を上回ることもある。主体的・対話的で深い学びの中でこそ人間性や各能力が磨かれていくことを、改めて評価することができた。そしてSDGsの達成を踏まえた探究課題を設定することでより高まることを確認した。

今後も「学び、考え、行動する力」と「自尊感情」 を高め「生きる力」を育成していく屋久島型ESDを 推進していく。





実践発表校紹介

「世界遺産学習全国サミットin屋久島」

屋久島町立金岳中学校

1 学校紹介

本校は屋久島の北西約12kmに位置する口永良部島にある。口永良部島はひょうたん型の火山島で、新岳は現在も噴気をあげている。また、貴重な生態系を有しており、夏には国の天然記念物に指定されているエラブオオコウモリが飛び交い、春にはエラブツツジが咲き乱れる。口永良部島はその美しい景観から「緑の火山島」とも呼ばれ、照葉樹林、青い海、湧き出る温泉など、「癒しの島」そのものである。

金岳中学校は同一の敷地内に小学校と中学校がある、小・中学校併置校である。令和3年度は小学生が12名、中学生が8名の極小規模校のため、児童・生徒の交流が活発で、合同で取り組む学校行事も多く、休み時間や昼休みも一緒に遊ぶ姿が見られる。

本校は「夢をもち 心身ともにたくましく 人間性豊かな生徒の育成」を学校教育目標として掲げ、教育活動全体を通して一人一人が持続可能な社会の担い手として成長するためにはどのような活動ができるか、模索しながら屋久島型 ESD に取り組んでいる。

2 これまでの取組について(自校の屋久島型 ESD 教育について)

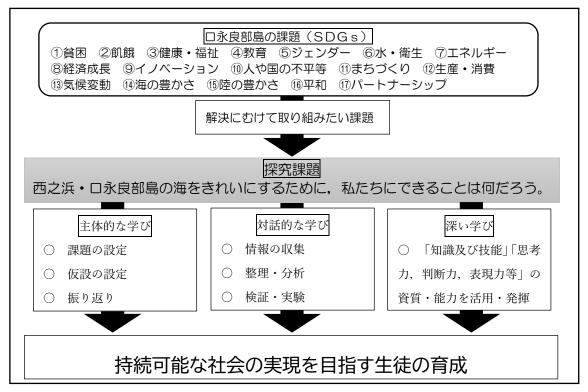
屋久島町の離島である本校の生徒たちは世界自然遺産を身近に感じることは難しいが、 島に残された雄大な自然を素材にした学習を通して、「学び、考え、行動する力」と「自 尊感情」を高め、「生きる力」を育成していきたいと考え、活動してきた。

昨年度、総合的な学習の時間の始めに、「口永良部島の良いところ、未来に残していきたいところ」を生徒たちと考えた。多くの生徒は「口永良部島の豊かな自然、美しい海を守りたい」と答えた。現状を確認するため、本村港、美浦港、及び周辺の海岸を見て回ったところ、島の北部に位置する西之浜には漂着ごみが集まり、口永良部島の未来に影を落とす状態であることが分かった。「西之浜の漂着ごみを何とかしたい」という生徒の声から、SDGsの12番目の目標である「つくる責任 つかう責任」と14番目の目標である「海の豊かさを守ろう」に焦点を当て、学習を進めることとなった。

学習計画は3か年計画で進めることとなった。1年目は口永良部島の自然を体験・体感し、現状を把握することを課題とし、西之浜の清掃活動、漂着ごみの分類、地域の方へのインタビュー、かごしま環境未来館、海上保安庁海の相談室、環境省九州環境事務所への電話取材、漂着ごみを用いたアートの作成を行った。2年目は探求活動、3年目は実践・情報発信を課題とし、持続可能な社会の実現を目指す生徒の育成に努めたい。

3 屋久島型 ESD 教育の年間指導計画(中学校3年間)

平成29年に告示された学習指導要領解説・総合的な学習の時間編に記述されている目標に基づき、探求的な学習が「主体的・対話的で深い学び」となるよう工夫した。本校では屋久島型ESDが重視する「地域を生かす」「身近なところから取り組む」という視点を意識した口永良部島独自のESDに取り組んでいる。



本校は極小規模校のため、総合的な学習の時間は 3 学年合同で実施する。そのため、3 か年での指導計画を立てている。



4 実践紹介

(1) 単元名

「口永良部島の海の豊かさを守ろう」

- (2) 単元目標
 - ・口永良部島の海の美しさ、豊かさに気づくとともに、島が抱える問題について自分で 課題を立てて解決することができる。
 - ・集めた情報や研究の成果を整理し、島内外へ発信することができる。
- (3) 活動の様子

関	地域の現状を把握し情報を集める						
心の	1 西之浜海岸へ行き、清掃を行う。						
喚	2 清掃活動で集めてきたごみを分別・集計する。						
起	3 データ集計をしてグラ	3 データ集計をしてグラフ化する					
理	調査の結果から課題を設定する						
解の	1 清掃活動体験,集計し	、たデータから課題を設定す <i>、</i>	3.				
深化	2 共通の課題を持つものでグループを作る。						
参	課題解決	央に向けて課題を設定し検証	を行う				
加す	・なぜペットボトルより	・なぜ中国や韓国からのご	・なぜプラスチックは				
する態度や問	キャップが多いのか。	みが多いのか。	小さくなるのか。				
度	仮説 1	仮説 1	仮説 1				
問問	・ボトルに比べ, キャッ	・海流が影響しているから	・紫外線の影響が大き				
題解決能力	プの方が浮きやすいから	ではないだろうか。	いのではないだろう				
決能	ではないだろうか。	検証1	か。				
	検証 1	・地図を使って口永良部島	検証1				
の育	・キャップとボトルを水	近海の海流を調べる。	・インターネットや文				
成	に入れ浮き方を調べる。	・どこからのごみが多い	献を読んで紫外線がプ				
	温度による違いも調べ	か、調査しデータを取る。	ラスチックにもたらす				
	る。		影響について調べる。				
	・海岸に落ちている砂	and the same of the					
	(マイクロプラスチック		- Contraction				
	が混ざったもの)を海水						
	に混ぜ、水中での様子を	拾ってきたごみのラ					
	調べる。	ベルやバーコードを頼	調査結果をもとに、検				
		りに国を調べました。	証方法を検討しました。				

参加する態度や問題解決能力の育成

仮説2

・キャップに比べ, ボト ルの方が壊れやすいから ではないだろうか。

検証2

・漂着したペットボトル を洗濯機に入れ,砕ける かどうかを調べる。



劣化したボトルは簡単 に砕けました。

・海岸に落ちているマイ クロプラスチックと洗濯 機にかけて砕けたプラス チックを比べる。



大きさに関連があるこ とが分かりました。

仮説2

・口永良部島の地形が関係 しているのではないだろ うか。

検証2

・様々な海岸を見に行き, 地形とごもの多さの関連 を調べる。



場所によってごみの量 の違いがありました。

・口永良部島のジオラマを 作成し、地形と海流との関 連を考える。



2月の発表に向けて作 成中です。

・紫外線以外で,影響を 与える可能性のあるも のを検討する。



紫外線の他にも雨, 風,乾燥などがプラス チック劣化の一因にな っているのではないか と考えました。

・屋外にプラスチック を放置して劣化の状況 を観察する。



金属、紙なども同じ 条件で放置し、劣化の 状況に違いが出るかも 確認しました。

具体的な行

解決に向けた行動

1 1年間の学習を振り返る

- (1) 活動内容をパネルにまとめ、地域と連携し生徒による発信をし、学習成果の振り返りを行う。
- (2) 奈良市立平城小学校とリモート交流を行い、活動内容を紹介する。

5 終わりに~これまでを振り返って~

今回の活動は自分たちの生活を振り返り、世界に目を向けて物事を考え、このままの消費社会が未来にもたらす影響を考える機会となった。これを機に SDG s の合言葉である「Think globally act locally」を実践できるよう行動変容に生かしていきたい。

故郷に学び、小瀬田・屋久島を愛する子どもの育成

~屋久島型 ESD の視点をもった学習の実践を通して~

屋久島町立小瀬田小学校

1 学校紹介

本校区は屋久島町東端に位置し、小瀬田地区と長峰地区からなる。東側は種子屋久海峡に面し、北は椨川を境に宮浦校区、南は落川を境に安房校区と接する。屋久島特有の花崗岩の岩盤上にあり、土地は表土が少なく土壌はやせている。南西側には屋久島の連山が迫り標高1,235mの愛子岳がそびえている。この愛子岳一帯は、世界遺産登録地になっている。

また、小瀬田地区には屋久島町庁舎、長峰地区には屋久島空港があり、屋久島の空の玄関口となっている。付近には、ホテルや飲食店、レンタカーショップやディスカウントストアがある。産業としては、昔は漁業や農業も行われていたが、現在は会社勤めや建設業に従事する人が多い。畑地では、お茶・サツマイモ・ガジュツの栽培が行われている。

地域では山岳信仰としての「岳参り」を始め,小瀬田地区特有の銭投げや四つ竹棒踊り,十五夜綱引きなど伝統が大切に受け継がれている。

2 これまでの取組について

本校では、ESD 関連の学習として、1・2年生は、生活科や創意の学習を中心に、川遊びや町探検、3・4年生は、総合的な学習で、伝統行事、漁業や自然、農業についての体験や調べ学習、5・6年生は、総合的な学習で、屋久島の自然遺産やウミガメについての体験・調べ学習やツマベニチョウの飼育に取り組んできた。

その際,実際に足を運び,郷土の自然や文化に触れ,体験することを大切にして,歴史や産業などの理解を深める学習活動を行ってきた。また,専門の方への講師依頼を積極的に行い,子どもたちは学びを広げ,深めてきている。

学習を通して,郷土愛や自律心,判断力,責任感などの人間性を育み,人,社会,自 然環境との関係性を認識し,自ら学び,考え,行動する力の育成を目指している。



【小瀬田の伝統行事について区長さんのお話】



【市橋農園でのタンカン収穫体験】

3 小瀬田小学校屋久島型ESD(持続発展教育)全体計画

学校教育目標

豊かな心を持ち、自ら考え正しく判断し、心身ともにたくましく生きる子どもを育成する

教育関係法規

- 日本国憲法
- 教育基本法
- 学校教育法
- 学習指導要領など

本校の重点課題

- ①豊かな学力の定着・向上 ②ねばり強い心と体の育成
- ③教育環境の整備
- ④開かれた学校づくり
- ⑤やさしく素直で礼儀正し
- い態度の育成

本校のESDの目標・SDG s との関連

郷土の自然や文化に触れ、歴史や産業などの理解を深める 学習活動を通して、郷土愛や自律心、判断力、責任感などの 人間性を育み、人、社会、自然環境との関係性を認識し、自 ら学び、考え、行動する力を育成する。











時代や社会の要請

- ・国際化、情報化などの社 会の変化への対応
- ・いじめや不登校などの 問題行動の解消
- ・生涯学習の推進

学校や地域社会などの実態

- ・児童の実態, 意識
- ・保護者の願い
- 教師の願い
- 地域社会の要請

目指す児童の姿

- 屋久島(小瀬田)の人・自然・地域に意欲的にかかわり、郷土のすばらしさを学ぶ子ども
- 屋久島(小瀬田)について学び、思い、考え、それらを表現したり、発信したりする子ども
- 屋久島(小瀬田)の人・自然・地域とつながりに気付き、つながりを大切にできる子ども ■ たま(しば歌)であったいにまれた。
- 屋久島(小瀬田)で育つ自分に誇りと自信をもち、未来へ夢や希望をもつ子ども

活動テーマ

屋久島(小瀬田)の人・自然・地域に学び、屋久島に誇りをもち、未来へ夢や希望をもって行動・発信しよう

	1・2年	3・4年	5・6年
重点目標	学校のまわりの探検を通して、学校や小瀬田について知ろうとしている。学校や小瀬田のよさを感じている。学校や小瀬田について分かったことや思ったことを表現しようとしている。	 小瀬田や長峰の自然、文化、歴史や産業などについて、体験を通して調べ、まとめ、理解しようとしている。 小瀬田や長峰のすばらしさに気付き、誇りをもっている。 小瀬田や長峰のすばらしさや思ったこと、考えたことを表現したり、発表したりしようとしている。 	 小瀬田や長峰、屋久島についてのこれまでの学習活動や経験から、世界遺産や自然環境などについて課題を持ち、体験を通して調べ、まとめ、理解しようとしている。 小瀬田や長峰、屋久島のすばらしさに気付き、誇りをもっている。 小瀬田や長峰、屋久島のすばらしさや思ったこと、考えたことを表現したり、発表したりしようとしている。
生活・愛子の時間	1年生『学校を探検しよう』 『男川へ行こう』 2年生『小瀬田探検にでかけよう』 『町ともっとなかよくなろう』 『町のすてきを発表しよう』 ・さつまいもを育てよう	『大好き小瀬田・長峰〜自然環境編〜』・屋久島で営まれる漁業を調べよう(漁法・トビウオ・サバ等)・屋久島の自然や人々のくらし、農産物を調べよう。(タンカン・ポンカン・ガジュツ・さつまいも等)・さつまいもを育てよう『大好き小瀬田・長峰〜伝統文化編〜』・小瀬田や長峰の伝統文化、環境について調べよう(四つ竹棒踊り、岳参り、門参り、鬼火たき、神社等)・調べたことを伝えよう・将来の夢をもち、挑戦しよう(半成人式〜キャリア教育の視点)	『知ろう!守ろう!わたしたちの屋久島』 ・世界自然遺産や屋久島の自然について調べよう(パークレンジャー・泊如竹・ウミガメ・小杉谷集落等) ・ツマベニチョウを育てよう ・さつまいもを育てよう 『知ろう!発信しよう!わたしたちの屋久島』 ・屋久島の発展について調べよう・将来の夢をもち,挑戦しよう(先輩の話を聴く,職業調べをする等) ・屋久島(小瀬田)PR活動をしよう・福祉について理解を深めよう(高齢者施設訪問等) ・国際交流を行い,他の地域を知ろう
道徳・特活等	自然体験学習(一日遠足) ふれあいデー 校区内奉仕作業	社会科・理科校外学習 自然体験学習(一日遠足) ふれあいデー 校区内奉仕作業	社会科・理科校外学習 自然体験学習(一日遠足) 集団宿泊学習・修学旅行 ふれあいデー 校区内奉仕作業

ESD (Education for Sustainable Development)

現代社会の課題を自らの問題としてとらえ、身近なところから取り組む(think globally,act locally)ことにより、それらの課題解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そして、それによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動。

SDGs (Sustainable Development Goals)

国連サミットで採択された持続可能な開発目標のことで、誰一人取り残さない持続可能で多様性と包括性のある社会の実現のため、2030年までを期限とし、17の国際目標と169のターゲットから構成されている。

4 実践紹介

「屋久島の漁業を調べてくわしくなろう」

屋久島町立小瀬田小学校

本単元「屋久島の漁業を調べてくわしくなろう」は、屋久島の魅力である海の恵みについて調べ、体験し、考え、まとめ、発信する活動を通して、地域の名所や行事等を調査し、PR動画を作成したり、実際にPRイベントを開いたりしながら、郷土愛を育むことをめざす単元である。

また、ICT を活用して調べたりまとめたりしたことを、他の学校とオンラインで交流することで、学びを深め、自分事としてとらえ、今後の生き方につなげるとともに、情報活用収集能力や活用能力の育成にもつなげる。

SDGs関連:11,12,13,14







1 単元名

屋久島の漁業を調べてくわしくなろう

2 単元目標

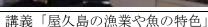
- ・ 体験的な関わりを通して自分の課題に気付き,進んで地域の産業への理解を深めると ともに,これから進んで産業へ関わろうとする態度を養う。
- ・ 探求活動や体験活動を通して学んだことや自分が考えたことを分かりやすく発表する ことができる。
- 自分たちの地域の産業のよさやすばらしさに気付き、進んで地域と関わることができる。

3 活動計画

過程	主な学習活動	教師の関わり	学習環境
つかむ	1 屋久島の漁業について知っていること	・ 屋久島で獲れる魚や漁業に	資料
	を話し合い,活動計画を立てる。	ついて,子どもたちが知って	
		いることを話し合わせる。	
調べる	2 屋久島で行われている漁業の特色	図書室の資料やインターネ	タブレット
	を図書資料やインターネットなどで	ット検索で,屋久島の漁業に	の利用
	調べる。	ついて調べさせる。(ICT	
		活用)	講師派遣依
	3 漁業をされている方から,漁業の	・ 熊毛支庁林務水産課の方か	頼
	歴史や屋久島で獲れる魚について話	ら,屋久島で獲れる魚や漁港,	地域人材の
	を聞く。	漁法等を説明していただく。	活用
		· 安房漁業集落,上屋久漁業集	
	4 加工体験をする。	落の漁師の方に実際に使う漁	
	・ トビウオのすり身を使った春巻	具を見せていただきながら,	
	き作り	漁の説明をしていただく。	
	- 魚のさばき方の見学 など	お魚マイスターの先生から、	
2.2.3	- tm .) .) .) . / / / / / / / / / / / / /	トビウオを使った春巻きの作	4-mm 20 .).
まとめる	5 調べたことや体験活動をしたこと	り方を教えていただく。	新聞,ポスタ
	を写真や図、イラスト・表やグラフ	・ 調べたことや体験したこと	ー,パンフレ
	などを使って自分の伝えたい形式で	が伝わる工夫を知らせる。	ット,リーフ
	まとめ、発信する。	・ 学んだことが生かされる相	レット作り、
	・ 新聞, ポスター, パンフレット	手校を選び、オンラインで交	タブレット,
	リーフレット, ロイロノート など	流を行う。	WEB カメラ
	この 江利のナールナナフ 江利人仕ナビルド	・学習の成果を後輩たちに残った。	
	6 活動のまとめをする。活動全体を振り返れ、治療の大法や特別に	すとともに、5・6年生での学	
	り、追究の方法や情報収集の仕方、発表の	習につなげられるようにす	
	仕方なども振り返る。	る。	

4 活動の様子







漁師さんに漁法を教わる



実演「カンパチの解体」



魚の加工体験

漁業の学習では、熊毛支庁水産課、屋久島の漁師さん、お魚マイスターの先生による 出前講座を効果的に活用できた。まず、水産課の方からの屋久島で獲れる魚や行われて いる漁について分かりやすく説明していただき、子どもたちがよく理解することができ た。次に、漁師さんたちから漁の様子の話を聞いたり、釣り針や糸、カンパチの解体を 見せてもらったりすることで、子どもたちの興味や関心、理解も更に深まった。そし て、トビウオのすり身を使った調理体験で、子どもたちは、屋久島ならではの海の幸の 美味しさを実感し、記憶に残る貴重な体験活動を行うことができた。

その後, どの子どもも意欲的に, 自分の課題に沿って, 調べたり体験したりしたことを分かりやすく新聞にまとめ, 発表や掲示をすることができた。

5 成果と課題

(1)成果

- ・ 子どもたちは、屋久島型 ESD の視点をもった学習を進め、体験活動を通して屋久 島の自然に親しんできている。さらに充実した ESD 学習を推進していくために、今 後も体験的な学習を多く取り入れた活動内容を創意工夫していきたい。
- ・ 「屋久島」の自然の素晴らしさや文化に実際に触れることで、世界自然遺産の島 「屋久島」に生まれ生活していることに誇りをもち、将来にわたりよりよく生きて いこうとする気持ちを高めることができた。さらなる充実に努めていきたい。

(2)課題

・ 自然体験を積極的に取り入れ効果的に学習を進めていくために,地域の人材や各団体との連携を今後も継続していく必要がある。また,ESD 学習により適した場所や人材,交流相手等を記録して教育課程に記載し,次年度以降に引き継いでいく必要がある。

自ら考え、協働し、豊かに表現する子供の育成 ~SDGsの視点に立った学習を通して~

屋久島町立栗生小学校

1 学校紹介

栗生校区は、鹿児島の南142.6kmにある屋久島の南西部に位置し、北は千m級の黒味岳・七五岳の連山を背に、南は東支那海に浮かぶ十島の島々を遙かに望み、周りは亜熱帯植物の繁る風光明媚な土地である。

栗生・中間の二つの集落からなり、古くは島内の 経済・教育・文化の中心地として栄えていたが、昭 和40年代から過疎化・高齢化が急激に進んでいる。

今年度創立142周年を迎えた歴史を紐解くと、明治 13年の小学校創立まで、寺小屋で教育がなされてお り、また明治中期には、島内で最初の嶽南高等小学



校が設立された。開校にあたっては、校区民の総意によって当局に陳情し、建設予算の一部を負担したと伝えられている。当時の教育方針「自立・創造」は、「嶽南精神」と呼ばれて、現在に受け継がれ、校区民の誇りである。本校の「赤門」は高等な学びを目指す屋久島の子供の憧れであった。

学校周辺は自然に恵まれ,子供たちを包み込むようにそびえ立つ甲ヶ峯と栗生川は,本校教育活動のシンボルの一つである。

2 本校におけるESDの取組について

本校ではこれまで『「人・もの・こと」のつながりを重視した取組を通して、自分たちの故郷のよさに気付き、大切にしていこうとする子供を育てる』をESDの活動テーマに掲げ、生活科や総合的な学習の時間を核に、世界自然遺産を素材にした教育活動の充実を図ってきた。

本年度は、そのESD理念を基盤として、更にSDGsの視点に立った学習展開を通し、「自ら考え、協働し、豊かに表現する子供の育成」を目指す研究・実践を進めているところである。 その目標達成のために、以下のような実践を行ってきた。

① 学習活動の見直し

これまでの総合的な学習の時間を見直し、新たに「たんかんを育てよう」($3 \sim 6$ 年生)、「屋久島の大自然へGO!」($3 \cdot 4$ 年生)、「世界に届けよう屋久島の魅力」($5 \cdot 6$ 年生)という単元を設定して、より体験的活動や地域とのつながり、環境教育を重視する学習活動を展開することができた。

- ② 地域の人材,専門性のある人材の活用
 - 1・2年生は「学校応援団」として地域の方に体験活動の協力をもらったり、 $3\sim6$ 年生はパークレンジャーや屋久島環境文化研修センターの方から学ぶ機会を作ったりして、地域や人、環境と自分たちの生活とのつながりに考えを広げ、より深い学びができた。
- ③ 表現力の育成

考えを表現・共有するツールとして、タブレットPCの活用を図った。朝の活動時間に「ロイロタイム」を設定し、各学年の段階に応じて実践を行うことで、子供たちが使い方に慣れ、学びに活用できるようになってきた。

- (例) 1~2年生:画像を撮影,生活科で野菜の観察記録やクイズに活用
 - 3~4年生:ローマ字入力や写真の貼り付け等,基本的な操作の技術を身に付ける 5~6年生:ロイロノートのシンキングツールを活用して意見交換
- ④ 全校朝会で「今月のSDGs」

全職員が毎月交代で17の目標の中から1つずつ全校朝会で話をする時間を設定した。様々な立場の教員から話を聞くことで、児童・教員ともに学びが広がった。

⑤ SDGsコーナーの設置

各学年の活動報告として,写真や活動記録等の掲示場所を設定し,取組の様子を可視化することで,学びの共有化や意欲の継続を図ることができた。

3 屋久島型ESD教育の年間指導計画 SDGs目標に関連するものをアイコンで表示

	1・2年	3・4年	5・6年
	1·2年:わたしにできること (道)	3~6年:たんかんを育てよう	(1~3学期) (1~3学期)
	M	3・4年:屋久島の大自 然へG0!(総)	5年:日本国土とわた したちの暮らし
<u> </u>	1年:きれいにさいてね(生)	3年:はたらく人と わたしたちの くらし(社)	(社) 5年:天気と変化(理)
学期	2年:大きくなあれわたしの野さい(生)	4年: ごみはどこから (社)	5・6年:世界に届けよう屋久島の魅力(総)
	2年:生きものとなかよし 大さくせん(生)	3・4年: 育ちゆく体と わたし(保)	5・6年:病気の予防 (保)
	1·2年:なつがやってきた (生)	4年:一つの花(国) 16 22 2	5年:未来を支える食糧生産(社)
	100	4年:水はどこから (社)	<u>—</u>
	1・2年:もっとなかよし町 たんけん(生)	3·4年:屋久島の大自然へ GO!(総)	5年:台風と天気の変化(理)
_	1·2年:たのしいあき いっぱい(生)	4年:自然災害にそなえるま ちづくり(社)	5・6年:世界に届けよう屋久島の魅力(総)
学期	1·2年:もみじがり (道) 3 (道)	3年:ちいちゃんのかげおくり(国)	5・6年:病気の予防 (保)
	1・2年:1にち10ぷん(道)	≛ 4	6年:平和で豊かな暮らしを 目指して(社)
	1·2年:つたわる広がるわた しの生活(生)		6年:電気と私たちのくらし (理)
	1·2年:ふゆをたのしもう (生)	3·4年:高齢者となかよくな ろう(総)	5年:人のたんじょう(理)
三学期	1年:もうすぐ2年生(生)	4年:ウナギのなぞを追って (国)	5年:未来をつくり出す工業 生産(社)
	2年:あしたヘジャンプ(生)		5年:国土の自然とと もに生きる(社)
	₩		6年:世界の人々とともに生 きる(社)

4 実践紹介

「たんかんを育てよう」

屋久島町立栗生小学校

○ 本実践の概要

本単元「たんかんを育てよう」は、屋久島の特産物であり本校区でもたくさん生産されている「たんかん」に着目し、生産に関わっている人々との交流や体験活動を通して、その価値や課題に気付き、自ら考え、協働し、行動できる児童の育成を目指す単元です。

また、本校が少人数の複式学級であることを生かして、 $3\sim6$ 年の異学年での学習を行いながら「コミュニケーションを行う力」「他者と協力する力」「進んで参加する態度」を育成します。 SDG s 関連 4, 12, 15, 17

単元名 たんかんを育てよう









- 2 単元目標(ねらい)
- たんかんを育てる体験活動や地域の人とのふれあいを通して、たんかんを育てる苦労を 知り、勤労の喜びや尊さを知る。

3 活動計画

過程	カー 画 主な学習活動	教師の関わり	学習環境
過程	1 たんかん農家の方の想いを知る。	○ たんかん農家の方に見	
-	/ · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	- // · · · · · · · · · · · · ·	
れ	・たんかん農家の羽生さんの畑を見	学と簡単な話の依頼をし	
る	学し,話を聞く。	ておく。	活用
		○ 今後の体験活動のスケ	
つ	2 _課題の設定をする。	ジュールを農家の方と決	
カゝ	たんかんを作っている人の想いを	める。	
む	知り、おいしいたんかんを作るには	○ 各班3~6年の児童が	異学年学習
•	どうすればいいか考えよう。	4~5名ずつの構成にな	
見		るようにする。	
通	3 各班で調べるテーマを決める。	〇 異学年交流のよさを生	т 1 • т2 • т3
す	A班:屋久島のたんかんの魅力	かし,3名の教師がT1·T	11 12 10
9	B班:生産と販売の工夫	2·T3となって各班に入り	
	C班:たんかんの育ち方	ながらテーマ決定のサポ	
	D班:おいしく健康に育てるには	ートをする。	
	4 各班の木に名前をつける。	○1グループに1本のたん	
		かんの木を割り当て,	
	5 活動計画を立てる。		
	・ たんかんのお世話(体験活動)	○ 調べ活動と並行して	図書室
	・ 調べ活動	体験活動を行う。	インターネ
	14-	・苗木の植え(4月)	ットの活用
活	6 テーマに沿って調べる。	・草取り (7月)	
動	験	・枯れ枝切り(10月)	地域人材の
•	7 農家の方にインタビューする。 活	・網掛け(12月)	活用
作	動	・摘果作業(2月)	111 / 11
業	8 「たんかん便り」について話し合う。	○ ロイロノートの使い方	n / n /
未	る 「たんがん使り」について話し合う。		· ·
•		を事前に指導する。	トの活用
検	9 「たんかん便り」の検討会を行う。	○見やすさ・分かりやす	
討		さの視点を与えて、レイ	
す	10 「たんかん便り」を完成させる。	アウトや内容を検討させ	
る		る。	
	11 たんかんの箱詰めをする。	○ 出荷前の箱に「たんか	地域人材の
	・ 箱の中に自分たちで作成した	ん便り」を入れさせても	
	「たんかん便り」を入れる。	らうことを農家の方と打	,
		ち合わせる。	
	<u>'</u>	ンロットにも。	l

過程	主な学習活動	教師の関わり	学習環境
ま	12 分かったことを整理してまとめる。	○ 相手に伝わりやすい発	ポスター作
と		表の仕方について指導す	り
め		る。	校内での発
る	13 他の学年や他の学校に発信する。	○ ポスターセッション	表会
		の形で発信する。	ズーム

4 活動の様子



【網掛け作業を体験する様子】 鳥や猿から大切な実を守るために, 生産農家さんに指導を受けながら網 掛け作業をしている様子です。



【インタビューする様子】 たんかんの育ち方やおいしいたん かんに育てるための工夫について質 問をしている様子です。



【グループで話し合う様子】 「たんかん便り」の内容や構成について, 異学年グループで話し合いを している様子です。



【検討会の様子】 「たんかん便り」の素地ができて、他 のグループからアドバイスをもらう ために発表をしている様子です。

5 成果と課題

- 異学年でのグループ学習を作り、継続した活動を重ねることで、協力し合う姿や話合いを 深める姿が出てきた。
- 外部人材や地域資源を活用し、体験的活動をすることで、生産に関わるの方の想いや生産の苦労・工夫に触れ、屋久島たんかんの魅力をもっといろんな人に知らせたいという思いが子供たちの中に生まれてきた。
- 「たんかん便り」を作成するに当たって、疑問に感じたことやもっと知りたいことを生産 に関わっている方に直接質問する姿が見られるようになるなど、主体性が高まってきた。
- 屋久島サミットを見据え、調べまとめたことをポスターセッション形式で他校に向けて発表することで、情報発信能力を高めることができた。
- △ 一人ひとりの課題意識の持ち方や解決に向けた取り組み方の工夫,まとめ方,協力の進め方など,多様な視点から成長を捉え,それを相互に認め合い,学び合う学習スタイルを定着させる。

「自ら学び、考え、行動する力を育成する ESD の実践」 屋久島町立八幡小学校

1 学校紹介

本校は、「八幡」と書いて「はちまん」と読みます。屋久島の最南端に位置し、南には黒潮が流れる豊かな海を、北には固有種の「ヤクタネゴョウ」という松の木が自生する山々を望むことができます。敷地内には、唯一の公立幼稚園「八幡幼稚園」が隣接し、合同運動会など、様々な機会で幼小の交流を盛んに行っています。また、地域住民は、屋久島にルーツを持つ方々に加え、全国各地から移住された方々も多く、多様な人材が、本校の教育活動を支え、協力してくださっています。

このように,世界自然遺産という教育的資源を身近に感じることができることや,多様な人材に恵まれ,支えられていることが本校自慢の特色です。本校の教育目標「自他を大切にし,自律できる八幡小の子どもを育てる。」を具現化し達成するため,それらの貴重な特色な生かし,児童の体験活動を重視した教育活動を実践しています。

2 これまでの取組について(本校屋久島型 ESD 全体計画より抜粋)

【八幡小 ESD の目標】

郷土の自然や文化にふれ、歴史や産業などの理解を深める学習活動を通して、人、社会、自然環境とのつながりから、自ら学び、考え、行動する力と自尊心を高め、生きる力を育成する。

【目指す児童の姿】

- ○屋久島(八幡校区)の人・自然・地域に意欲的に関わり、郷土のすばらしさを学ぶ子ども
- ○屋久島(八幡校区)について学び、思い、考え、それらを表現したり、発信したりする子ども
- ○屋久島(八幡校区)の人・自然・地域とつながりに気付き、つながりを大切にできる子ども
- ○屋久島(八幡校区)で育つ自分に誇りと自信をもち、未来へ夢や希望をもつ子ども

	1・2年	3・4年	5・6年
生活・総合的な学習の時間	 【年生】 『がっこうだいすき』『なつがやってきた』『たのしいあき いっぱい』『ふゆをたのしもう』 【2年生】 『はるをさがそう』『どきどきわくまちたんけん』『もっとなかよしまちたんけん』 	③・4 年生テーマ 『発見!発信!屋久島の自然』 (主な活動内容) ・屋久島の海について調べよう。 ・屋久島の山について調べよう。 ・自然を守る取組を考え発信しよう。	[100 100
各教科	八幡小 ESD カレンダーを参照し 合的に働くようにする	生活において生かし, それらが総	
その他の主な活動	自然体験学習(一日遠足) じゃがいもの世話・収穫 校区内奉仕作業等 地震避難訓練 地域子供会育成会を中心とした 活動	自然体験学習(一日遠足) じゃがいもの世話・収穫 校区内奉仕作業等 地震避難訓練 地域子供会育成会を中心とした 活動	修学旅行・宿泊学習 じゃがいもの世話・収穫 校区内奉仕作業等 地震避難訓練 地域子供会育成会を中心とした 活動

3 屋久島型 ESD の年間指導計画 本校は、本年度の実践をもとに ESD カレンダーを作成しました。

1	・2年	ESDカ	レンダー		①…1年	②…2年						
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(国)		(国①)はな	ょのみち			(国①)うみ	のかくれんぼ					
(算)		(国②)た	んぽぽのちえ			(国①)しらせたいた	なみせたいな				
(社) (理)	(算②)ひ	(算②)ひょうとグラフ (算②)1000までのかず					ぶつえんのじゅう	l)				
		(算②)時こく。	と時間									
	①がっ.	こうだいすき	①なつが	やってきた		1) 1	このしいあきい	っぱい		①ふゆをた	たのしもう	
生活	②はるだ	今日から2年生	生 ②生	きものなかよ	こしだいさく	せん	②もっ	となかよしま	ちたんけん			
		②おおきく	なあれわたしの	やさい								
(音)	(雀	音①)校歌	(図①)すなや± みてみて									
(体) (外)								(体①②)で	ひょうげんあそび			
(71)		(音①)うみ	(体①②)水あ	うそび		(体①②)か	けっこ、リレー					
(道) (学)	(324) 1 4- 41-	(道①)まちたんけん (道②)わたしたちもしごとをしたい					(道①))もみじがり		(道①) ā	きれいになったず	こうしつ
(行)	(子) 1 年生	を迎える会 (学)児童総会			(行)八幡クリーン大作戦						
	(行)春の一	日遠足 (行	r)花いっぱい週間	j		(行)合同運	動会		亍)じゃがいも植	iえ・収穫		

3	・4年	ESDカ	レンダー		③…3年	④…4年							
	4 月	5月	6 月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
(国)		(国④)聞き取りメモの工夫 (国④)新聞を作ろう (社③)わたしたちのまちと市					(国③)ポスターを読もう(国③)すがたをかえる大豆 (国④)世界にほこる和紙 (社④)工場で働く人と仕事 (社④)自然災害にそなえるまちづくり				(国③)わたしたちの学校じまん (社③)わたしたちの市のあゆみ		
(算) (社) (理)	(社④)ごみはどこへ (社④)水はどこから (算③)表とグラフ (算④)大きい数 (算④)折れ線グラフ (理③)春の自然にとびだそう(理③)たねをまこう,ちょうをそだてよう (理④)天気と気温 (理④)雨水のゆくえと地面の様子						(算④)資料の整理 (理③)こんちゅうをしらべよう (理④)自然の中の水の姿			(算③)しりょうの活用 (算④)資料の活用			
総合	(1)単元のめる (2)平内海岸 (3)海のレン (4)追加の調3 (5)学習をまる	, -, , -,				(1)山の自然に		をたる。		(1)自然を守る (2)ヤクタネコ (3)追加の調査 (4)自然を守る	組を考え発信しよう 取組について探求 『ヨウを見学に行・ 記活動をする。 む取組を考え実践。 :め、発信する。	課題をたてる。 く。	
(音) (図) (体) (外)	(図③)自然	のいろ	(音③)ちゃつ (図③④)スケ・ (E (体③④)水流	ッチ大会 図③)みぢか	な自然の形と色	(音④)もの	のけ姫から (音 (④)音楽古今 (音③)にっぽん	のうた	•	③)土でかく 気に入りの場所・	を紹介しよう	
(道) (学) (行)	(道④)十歳のプレゼント (道④)自分たちにできるエコ活動 (学)1年生を迎える会 (学)児童総会 (行)春の一日遠足 (行)花いっぱい週間					(道③)郷土かるた(道③)いちょうの木を守るために (行)八幡クリーン大作戦 (行)合同運動会 (行)じゃがいも植え・収穫							

5	・6年	ESDカレ	ンダー		⑤…5年	⑥…6年						
	4 月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(国) (算) (社)	(国⑥)地域 (社⑤)わた	ぱの施設を活用しよ ⁻ : したちの国土 (社⑥)わたし	う(国④)情報と情報 (社⑤)わたし したちの暮らしる			(国⑥)利用	(国⑤)固有和 案内を読もう	重が教えてくれ (国⑥)調べ	いること た情報の用い		たしたち生活と (社⑥)世界の (算⑤)いろぃ	中の日本
(理)	, -,	と私たちのくらし	, -,	勿のくらし	と環境		, -,	わり続ける大)働き 地	(3.2)	- タの活用 (理⑥)地球に	
総合	(1)屋久島の産業 (2)屋久島の産業	「屋久島のみりょく 業や文化について話 業や文化について調 て学ぼう(10時間) めよう(7時間)	そう		<u>夏休みの課</u> <u>自由研究</u>	(1)屋久島の産業 (2)産業や文化が (3)学習をまとめ		問題について話そ ヽて調べよう		(1)未来の屋久息	ふれる屋久島を創	
(音) (図) (体) (家) (外)	()	⑤)にっぽんのうた 図⑤)のぞいてみ)生活再発見(家⑤	ると(図56)ス (体3④)水泳	ケッチ大3 運動			を感じる素敵な		,	(家⑤)生活を支 (家⑥)ともに生 (》	(音⑥)ふる (図⑤)伝え ええるお金と物 ききる地域でのか 家⑥)持続可能な Welcom to Japan	:社会を生きる
(道) (学) (行)	(学)1年生	を迎える会 (学)児	, ,	地球があ	ぶない	(道⑤)海	り世界都市前の を耕す人たち 村堤防の清掃ボ (行)宿泊学習	ランティア (道⑥)いち 図	トしよう ばん近い自然 リーン大作戦		・ 然を守るエゾリ	
	(行 (行)春の一)修学旅行 日遠足 (行)才	花いっぱい週間			(行)合同運	動会	(,	, ノハIF報 f)じゃがいも	値え・収穫	(13)	, 1170.XX

4 実践紹介

「発見!発信!屋久島」

屋久島町立八幡小学校

令和4年2月10日(木)第5校時3年1組11名 指導者 當間 いづる 4年1組 7名 指導者 橋口 和真

本単元「発見!発信!屋久島の自然」は,屋久島国立公園や世界自然遺産,自然保護活動について調査し,自分たちにできる発信方法や自然保護活動を考え実行する学習を通して,主体的に学び,考え,行動する力を育てることをめざす単元です。

また、ICTを活用して、町内や県外の学校をオンラインでつなぐことで、より自分たちの住む地域の魅力を伝える機会を確保しながら、情報活用収集能力や活用能力の育成にもつなげます。

SDGs関連: 4, 14, 15, 17

1 単元名 発見!発信!屋久島の自然

2 単元目標

3年 屋久島の自然を体験する活動を通して、屋 久島には豊かな自然環境があることを知る とともに、それを守るために自分にできることに進んで取り組もうとする態度を育てる。 とに進んで取り組もうとする態度を育てる。 とに進んで取り組もうとする態度を育てる。 3年 屋久島の自然を体験する活動を通して、屋 久島の豊かな自然環境を守る人々の諸活動 の工夫や努力について理解し、地域のために 自分にできることを進んで行動しようとし たり、様々な人々と協力したりしようとする 態度を育てる。

3 活動計画

過程	主な学習活動	教師の関わり	環境
課	小単元1「屋久島の海について調べよう」 (1)単元のめあてや1年間の学習を確認する。 (2)平内海岸を巡視し探求課題をたてる。	○身近な地域から課題意 識をもたせる。 OSDGs を取り扱い, 世	【 講 師 】 ・ レ ン ジ ャ ー 体 験 ・・・ 世界遺産センター自然保護官補佐
設題定の	3 年屋久島の海にはどのような 自然があるのだろう。 4 年屋久島の海の自然はどのよ	界の課題と関連づける。 〇国語の新聞作りと関連 づける。	SDGs について…ESDアドバイザー海からの招待状…地域住民
整情理報・分収析集	うに守られているのだろう。 (3)海のレンジャー体験をする。 (4)追加の調査活動をする。	○社会「ごみはどこへ」 と関連づける。 ○地域人材を積極的に 活用する。	海岸清掃ボランティアについて・・地域住民【他校他地域との交流】・安房小(屋久島町)
ま 表と 現め	 海からの招待状 海岸清掃ボランティアについて (5)学習をまとめ発信する。 新聞や発表スライドなどにまとめる。 他校へ紹介する。(屋久島町内の小学校) (6)夏休みにできる活動を考え実践する。 	○多様な方法で情報収集,整理,分析,まとめをさせる。 ○他校や他地域に発信する目的を明確にさせる。	・永田小 (屋久島町)【ICT の活用】・インターネットで情報収集・リモート授業・ロイロノートで新聞記事の作成
設定課題の整理・分析集	「単元2「屋久島の山について調べよう」	○前学習の成果と課題を の成になせる。 を生かすよの方技とでに の方の技術のでは の方の技術のでは のが見られるようで のが見られるとで のが見られるとで のが見られるとで のが見られるとで のが見られる。 の社会では が見られる。 の社会では が見られる。 の対象で が見られる。 のが見られる。 のが見られる。 のが見いる。 のがしたがはいる。 のが見いる。 のが見いる。 のが見いる。 のが見いる。 のが見いる。 のが見いる。 のが見いる。 のが見いる。 のが見いる。 のが見いる。 のが見いる。 のが見いる。 のが見いる。 のが見いる。 のがしたい。 のがしたいる。 のがしたいる。 のがしたいる。 のがしたいる。 のがしたいる。 のがしたいる。 のがしたい。 のがしたいる。 のがしたい。 のがしい。 のがし、 のがしたい。 のがしい。 のがしい。 のがし、 のがしい。 のがし、 のがしい。 のがし、 のがし、 のがしい。 のがし、 のがし、 のがし、 のがし、 のがし、 のが	 【講師】 ・レンジャー体験 …世界遺産センター自然保護官補佐 ・人権教室 …ESDアドバイザー ・森とシカゲーム …森林環境保全センター ・白神山地について …自神山地自然アドバイザー 【他校他地域との交流】

1

- 森とシカゲーム
- ・白神山地について

(4) 学習をまとめ発信する。

- 新聞や発表スライドなどにまとめる。
- 他校へ紹介する。(屋久島町内の小学校)
- ・他校へ紹介する(県外の小学校)
- 集,整理,分析,ま とめをさせる。
- 〇発信相手とのつながり が深めさせる。
- 〇新たな発信相手を考え させる。
- 安房小(屋久島町)
- 永田小(屋久島町)
- ・大鰐小(青森県) 【ICTの活用】
- インターネットで情報収集
- ・リモート授業
- ロイロノートで新聞記事の作成

小単元3「自然を守る取組を考え発信しよう」」

(1) 自然を守る取組について探求課題をたてる。

課題の設定

整情

理報

• Ø

分収

析集

表と

現め

表と

現め

- 3 年屋久島の自然を守るために 自分たちにできることは何 だろ。
- 4 年屋久島の自然を守るため に、みんなでできることは 何だろ。
- (2)ヤクタネゴヨウを見学に行く。(3)追加の調査活動をする。
 - ヤクシカの問題について
 - ・世界の課題について
- (4)自然を守る取組を考え実践する。
 - 自分たちにできる自然保護活動動に取り組む。
 - ・活動の成果と課題を考える。
 - 活動の成果と課題を他校に伝え、意見交換をする。

・ 活動の成未と課題を他校に伝え、息見交換をする。 【本時)「みんなで屋久島 with ESD アドバイザー」

(5)学習をまとめ、発信する。

・地域に向けて発信する(学習発表会)

- 〇ヤクタネゴヨウを保護 する人々の思いやエ 夫,努力に気付かせる ようにする。
- O4 年社会「わたしたち の県のまちづくり」と 関係づける。
- 〇地域のどのような自然 を守りたいのかを明確 にさせ, 具体的な活動 を考えさせる。
- ○他校との交流を通して、屋久島の未来を創造していく仲間意識を持たせる。
- 〇学習の成果が地域に還元できるような発表を 考えさせる。

【講師】

- ヤクタネゴヨウ見学… 生物多様性連絡協議会
- ヤクシカの問題
 - … 森林環境保全センター
- 世界の課題

• • •

【他校他地域との交流】

- •安房小(屋久島町)
- 永田小(屋久島町)
- ・大鰐小(青森県) 【ICTの活用】
- インターネットで情報収集
- ・リモート授業
- ロイロノートで新聞記事の作成

4 活動の様子



【海のレンジャー体験の様子】 外部講師を招き, 屋久島の海の生き物 を探したり海岸清掃 体験をしたりしている様子です。



【森とシカカードゲームの様子】 森とシカの関係に ついて,カードゲー ムでシミレーション を行い,対策を考え ました。



【他校との交流の様子】 他校と学習を発表 し合い,学習のつな がりや仲間意識を感 じることができまし



【地域の人にインタビューをする様子】 地域住民を招き, 海岸清掃ボランティ アをする人の思いを 聞き取っている様子 です。

5 おわりに~活動を振り返って~

屋久島の自然というテーマは、大人達が現在進行形でその価値や課題解決を考えていることです。その正解がない学習に必死に向き合うことを通して、子どもたちは、主体的に学び、考え、行動する力を高めていくことができました。また、地域や県外の人もまきこんで、共通の思いを持つ仲間とのつながりを持つことができました。今後の課題としては、この取組がこれからも持続可能であるように、継続、発展させていくことです。

最後に,本校の教育活動に御協力いただいた皆様に,深く感謝申し上げます。

自ら気付き、考え、実行する児童の育成

~総合的な学習の時間を核としたカリキュラム・マネジメントを通して~ 屋久島町立神山小学校

1 学校紹介

本校は、屋久島の南東部に位置する学校である。校区の北側は山地で、南側は海岸へ向けてなだらかな丘陵が広がり、暖かく住みやすい所である。校区のシンボルである本富岳(モッチョム岳:標高940m)の麓には、トローキの滝、千尋の滝等、観光スポットがあり、多くの観光客が訪れる。そのため、校区内にはホテルや民宿なども多い。また、ポンカンやタンカンの名産地として名高く、子供たちも授業の中で毎年収穫体験を行う等、地域の魅力に親しんでいる。島外からの移住者も多く、児童数は年々微増傾向にある。校区民は、学校教育活動に協力的で、保護者手作りの竹馬に乗って行う竹馬大会、6年生のモッチョム岳登山、毎年11月に行われる保護者や地域の方による「ふるさと先生授業」等、特色ある教育活動を展開している。

このように、豊かな自然、多様で豊富な人的リソースを生かしながら、学校教育目標「主体的に学び、心豊かで、心身ともにたべましく、夢実現を目指す神山の児童の育成」を目指し、教育活動を実践している。特に「自ら、気付き、考え、実行する児童」を標榜し、目指す児童像の具体化を図り、教育活動を実践している。

【自ら気付き考え実行する児童の姿の具体化】							
	知	德	体				
知識 技能		良さを理解し、自ら考	規則正しい生活や体力 向上の良さを理解し実 行できる児童				
思考力 判断力 表現力	どのような場面でも筋 道立てて考え表現でき る児童	誰に対しても自分の思	身の回りの危険や心身 の健康について考えて 自分の言葉で伝えるこ とができる児童				
学びに向かうカ 人間性等	自ら課題に気付き、友 達と学び合いながら課 題を追究する児童	粘り強く向上心をもっ て目標を達成しようと する児童	あきらめずに最後まで やり遂げる児童				

2 これまでの取組について(本校の屋久島型ESDについて)

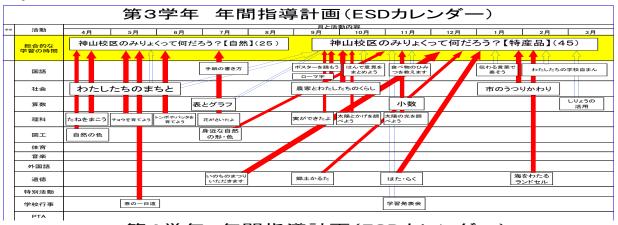
前年度までの本校の教育課程は、各学年の探究課題が5つの領域に渡っていたことから、1単元あたりの配当時数が少なくなり、学習が体験活動の域に留まっていた。また、単元間のつながりも薄く活動が教師から与えられたものになっていた。その結果、探究的な学びとなっていないというカリキュラム上の課題があった。探究的な学びの実現を図るために、本校の特色を生かした神山小版屋久島型ESDの軸を設定する必要がある。

そこで、学校の特色について、「機会」、「脅威」、「強み」、「弱み」からなる軸で SWOT分析を行った。その結果、学校の特色について、地域の有する自然、産業、人といった豊富なリソースを生かし、地域の課題を解決していく活動を設定していくことが可能であり、更にそのことが「自ら気付き考え実行する児童」の育成につながると考え、本校における屋久島型ESDの軸を「郷土」と設定した。さらに、共通テーマを「生かそう!屋久島のみりょく」創ろう!わたしたちの未来」とすることで学習者である児童とビジョンの共有を図った。探究課題については、各教科、行事等と関連付けながら1つに絞り、年間を通じて探究的な学びが実現するよう改善を図った。

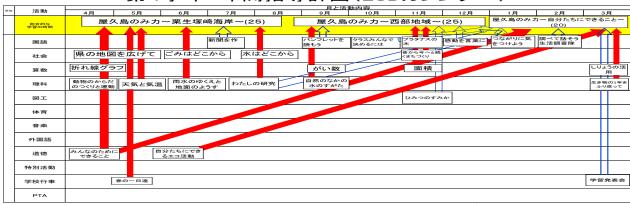


3 屋久島型ESD教育の年間指導計画

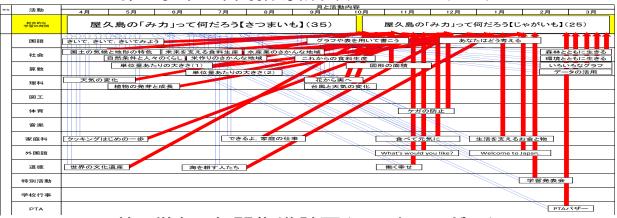
各教科で身に付けた資質・能力が活用・発揮され、更に高次の資質・能力へと発展する場面が年間通じてカリキュラム上で実現するよう、第3~6学年においてESDカレンダーを作成し視覚化を図る。知識・技能を赤矢印で思考力・判断力・表現力を青矢印(白抜き矢印)でつなぎ資質・能力同士のつながりが分かるようにした。



第4学年 年間指導計画(ESDカレンダー)



第5学年 年間指導計画(ESDカレンダー)



第6学年 年間指導計画(ESDカレンダー)

活動							動内容					
2四 美力	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総合かな 特留の時間	オリエンテーション	庭児島のみ て何だる	, DO		生かそ	う屋久島	のみカ			⊃<₹	う 私たちのま	来
国8吾			私たちにでき	ること					人のにしたい		思い出を	今、私は、 ばくは
社会							明治の新し	い国作り	は争た人々の くらし	国家とつながりの	世界の人々と	共に生きる
算数												
理科				生き物のくらしと環境								地球に生きる
國工											700 - 91	無事の わかし
体育												
音楽												卒業式の歌
家庭科			持続可能な社会								共に生きる地域での生活	
外国語				外国の人にメッ			We all live in the Earth.	140.50	にと自分の国のつか につを紹介しよう	My Best Memory	My Fature, My Dream	
道德			地球が	一番近い自然							マザー テレサ	わたしは広がる
特別活動										学習多数を		卒業式練習
学校行事			维约约约								学程务表示	2 業 文
PTA												

4 実践紹介

「知らせたい!屋久島の自然・タンカンの『見カ』『美カ』『味カ』」 屋久島町立神山小学校

本単元「知らせたい!屋久島の自然・タンカンの『見力』『美力』『味力』」は、体験活動を通して、身近にある自然や神山校区の特産品であるタンカンの魅力や、その魅力を守り発信していこうとしていく人々の思いについて知り、食品ロス、気候変動等の課題に気付き、解決方法について考え、キャンペーンやイベント等を企画し発信することを通して、自ら気付き、考え、実行する資質・能力の育成を目指す単元である。

年間通じて中種子町立増田小学校3・4年生とのオンライン交流学習を行うことで、児童が「知らせたい!」という意欲をもち探究活動に意欲的に取り組むことができるようにすると共に、情報活用能力の育成につなげる。

SDGs関連: 2, 12, 13, 14, 15, 17

1 単元名

「知らせたい!屋久島の自然・タンカンの『見カ』『美カ』『味カ』」

2 単元目標(ねらい)

神山校区・屋久島の自然やタンカンの特色について探究的な活動を通して、その魅力や観光業、農業に従事する人々の願いや思いを知ると共に、目の前の課題を自分事として捉え、友達や地域の方等の他者と協働しながら、課題解決に向けて取り組もうとすることができる。

3 活動計画

過程	主な学習活動	教師の関わり	学習環境
課題の設定	小単元1「神山校区のみりょくって何だろう? (自然)」1 種子島の学校とオンライン交流学習を行う。→「自分たちも校区の特色をあまり知らないな。」	・ 「校区の特色をあまり知らない。」「校区の特色をあい。」というと知りたいでは、交にの学生のでは、交にの学校から校区の特色につい事前アントを行う。 ・ だった 発表が ロードを これ アード まった アード まった アード まった アード・ アード・ アード・ アード・ アード・ アード・ アード・ アード・	【携・(【の・町師関イ護校流子増立 ド)と 島田
情報の 収集	2 ガイドの方に神山小学 校敷地内の自然の魅力, 環境保全の取組について 話を聞く。 3 魅力をたくさんの人に	にするために,ロイロノートの効果的な使い方を指導する・ガイドを講師に招いた授業が,児童の必要感に基づいたものとなるよう,「インターネットだけでは,あまり分からない。」という児童の声を拾う。	回 小 学 生 【 ICT 用 】 ロ ト し ー ト ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー
整理· 分析	知ってもらうための取 組,環境保全のための取 組について分類・整理す る。	・ 身の周りの生き物に対する, 興味関心, 環境保全に対する課題意識を高めるために, 虫や植物に詳しいガイドを講師として招き, 魅力についての説明, 児童からのイ	レゼル ゼル・ ボボ動・ 表) ・zoom(
ませめ表現	4 自然の魅力を広めるためにガイドマップを作ったり、交流先の学校に伝えたりする。	・ 対対 では では では では では では では では でいま	流学習)

過程	主な学習活動	教師の関わり	学習環境
導入	小単元2「神山校区のみりょくって何だろう? (特産品)」 1 SDGsについて理解を深める。	・ タンカン作りにおける 課題を広い視野かるよう 事として捉えさせるよう にするために,屋久島町バ ESDグローバルアドバ	【講師・連 携機関】 ・ESDグル アドバイ
情報の収集	2 10月,12月のタンカン園見学,11月ふるさと先生授業等を通して,タンカンの魅力と農家の工夫,今抱えている課題について知る。	イザルの世界のでは、 でおいる。 では、一をおいる。 では、のが、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	ザー ・カン 農家 ・こま どり 館 【 ICT 活
整理・析の定	3 体験活動を通して分かったタ 一でおいて、 を連れる。 を連れる。 を表する。 を表する。 の付いたタンカンが捨てられて、 の付いたタンカンが捨てられて、 のでにあるが作りがになる。 でにいる。 でになっている。 でになっている。 でになってもらうこと	「タなどか児 が、えったとのののるとを知知い。」 もののるとなれいのではいいいいではいいいではないのではないできるがいいできるがいいできるがいいでいるとなれた。 はるはいの教をで学されたよいでがでいいない。 はるはいの教が、こうにはいいいではないではないができる。 はなどか児がいいいでは、こうには、こうには、こうには、こうには、こうには、こうには、こうには、こうに	用】 イ(資調・ ロプ資調・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
情報の集め現ま	ができないか。」 4 タンカンを使った加工品について調べ、自分たちで作れそうカンととを選ぶ。傷ついたタンカーでも、まないでも、まないで、ないで、まないので、まないで、まないで、まないで、まないで、ないで、まないで、まないが、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	を使った情報の整理(算数科),農家の工夫や努力(社会)等の学習を想起させる。 ・ タンカン栽培における課題や,環境への配慮等,事前にタンカン農家と打ち合わせを行う。	

4 活動の様子



本校保護者であるガイドの案内の下,学校敷地内,近隣の公園の自然の植物や昆虫の観察を行う様子。



ESDグローバルアドバイザー杉下さんから,世界の様子や全国の取組について教えてもらっている様子。



サンテ (布袋) 被せ体験後, タンカン農家に質問をし, 鳥害や気候変動といった問題を知り, 自分たちにも何かできないか考えている様子。

5 成果と課題(○成果 ●課題)

【活用できる知識・技能を身に付けている児童】

○ 社会科「昔のくらしと道具」の学習において、「昔のくらしはエコで SDGs につながる。」という発言があり、社会科の学びを自分たちの生活に生かし、社会課題の解決につなげようとする姿が見られた。

【自ら課題に気付き、友達と学び合いながら課題を追究する児童】

【粘り強く向上心をもって目標を達成しようとする児童】

- 3学期の始業式の代表挨拶で、休日に自主的に海岸のゴミ拾いを行った体験を 基に、SDGs にみんなで取り組んでいくことの必要性を訴えた。更に、学校の課題 を解決し、よりよい学校にしていくために「解決ボックス」を作成し、設置した。
- 残食が多かった学級において、食品ロスへの意識が高まり、これまで量を減らしていた児童が少しずつ増やすようになり残食が激減した。

【どのような場面でも筋道立てて考え表現できる児童】

● 4月の時点で挙手が少なかった児童が、自分から挙手し発表する場面が増えているが、途中で言葉が詰まり最後まで自分の考えを伝えきることができない場面があり、「筋道立てて表現する力」の育成が不十分であると感じる。

実践公開校紹介

「ふるさと屋久島を大切に思う子供たちの育成をめざして」 ~第4学年総合的な学習の時間「水に学ぶ」より~

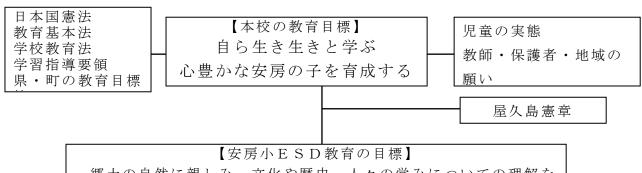
屋久島町立安房小学校

1 学校紹介

本校は、屋久島の東部に位置し、古くから開けた漁港を有する安房の高台にある。安房地区は山岳地域への玄関口となっているので、観光業関連の産業が多く、官公庁の出先機関等もある。ほかに漁業・農業等が主な産業になっている。また、屋久島の聖人「泊如竹翁」の出身地でもあり、地域内には如竹翁由縁の地や業績の跡が残されており、今なお住民の心の中には、その教えを尊ぶ気持ちが流れている。

本校では、地域の方々の支援のもと、ESDの視点を学習活動に取り入れ展開することで、この素晴らしい歴史と文化、自然あふれる屋久島の再認識・再発見を促しながら、ふるさとを大切に思う子供の育成を目指し、学習活動を実践している。

2 ESD教育全体計画



郷土の自然に親しみ,文化や歴史,人々の営みについての理解を深める学習活動をとおして,自尊感情を育むと共に,人,物,命と

の関わりを認識し、自ら学び、考え、行動する力を育成する。

【目指す児童の姿】

- 安房・屋久島の人・自然・地域に意欲的に関わり、郷土のすばらしさを学ぶ子
- 安房・屋久島について学び、思い、考え、表現すると共に、発信し、行動する子
- 屋久島の人、物、命と自分とのつながりに気付き、大切にできる子
- 屋久島に育つ自分に誇りと自信を持ち、未来への夢や希望を持つ子

【安房小ESD教育活動テーマ】

「人・物・命にやさしい安房っ子の育成」

- ふるさとに学ぶ学習活動をとおして -

3 屋久島型ESDの年間指導計画

	1年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
5月	きれいに - さ い て - ね	ぐん かく かく	作ろう校	植物図鑑をな	森に	屋久島を
6 月		てわたた	区マップ	作 ろ う	学	語ろう
7月	きせつとあそぼう	ししんけん		水		
8月		* L	お う 屋	に学		
9月	いきもの となかよ - し	なかよ	久 島 の	\$	屋 久 島	
10月	きせつと あそぼう	しまち	自 然 ———————————————————————————————————		を い た	共
11月		たんけり		福	だ き ま	に 生
12月		ん		祉に	!	*
1月	きせつとあそぼう	あ し た	調べよう	学		S
2月	もうすぐ	へ ジ ヤ	昔の	***		
3月	2年生	ンプ				

4 実践紹介

本単元「水に学ぶ」は、子供たち自身の住んでいる世界自然遺産の島「屋久島」の魅力を再認識させ、郷土愛を育むことをねらいとした学習活動です。この学習をとおして、屋久島の豊富で美しい水を大切にしたいという思いや、屋久島の自然環境を守り続けるといった実践的な態度を育んでいきます。

また、ICTを活用して、町内の学校をオンラインでつなぐことで、自分たちの住む地域の魅力を伝え合う機会を確保しながら、情報収集能力や情報活用能力の育成にもつなげます。

SDGs関連: 11, 14, 15, 17









(1) 単元名

水に学ぶ

(2) 単元目標(ねらい)

屋久島の河川・海岸の自然環境や水利用等について調べ、課題を見いだす ことにより、屋久島の水を大切にしながら自然環境を守ろうとする実践的な 態度を育てる。

(3) 活動計画

過程	主な学習活動	教師の関わり	学習環境
つかむ	1 奈良市の小学生と「水」につ	・奈良市の小学生が川の水に	オンライン
	いて話し合う。	ついて学習していることや屋	によるリモ
		久島の水に関心をもっている	ート授業
		ことを知らせる。	
調べる	2 屋久島の水について調べ	・調べる項目を6つ設定し、	各施設等の
	る。	関心のある項目について調べ	見学
	(1) ヤクスギランドの湧水	させる。	
	(2) 春田浜の海水	・施設見学やICTを活用し	地域人材の
	(3) 安房川の水力発電	た調べ学習を行わせる。	活用
	(4) 酒造会社の焼酎づくり	・地域人材を活用し, 取材(イ	
	(5) クリーンセンター・浄水場	ンタビュー) による調べ活動	
	(6) 如竹堀(用水路)	も体験させる。	
	3 調べたことをまとめる。	・どうすればよりよく相手に	
まとめ	4 奈良市の小学生に調べたこ	伝わるかを意識させながら文	タブレット
る	とを伝えたり、奈良市の水に	章の構成や文字・写真等のレ	の活用
	ついて学んだりする。	イアウトを工夫させる。	
	5 屋久島の水や自然環境を守	・学習のゴールは,「屋久島の	壁新聞作り
	るために自分でできることを	自然環境を守るために自分に	
	考える。	何ができるのか。」であること	リモート授
		を想起させる。	業

4 活動の様子



【湧水の水質検査】 ヤクスギランドの湧水の水質検 査を行っている様子



【海岸の自然環境調査】 春田浜の自然や漂着物等につい て調査している様子



【水力発電について】 安房川の水を利用した水力発電について調べている様子



【如竹堀について】 屋久島の聖人泊如竹翁が島民の ために私財を投じて造ったと伝承 される用水路について調べる様子

5 おわりに~これまでを振り返って~

奈良市の小学校よりオンラインによるリモート授業の誘いを受けました。その中で、奈良市の小学生が屋久島の水について、本校の児童に質問を投げかけました。すると、ほとんどの質問に対して明確に答えることができませんでした。本単元は、「屋久島の水についてほとんど知らない」という子供たちの思いから始まった学習でした。子供たちは、屋久島の水が、「どのようなものなのか。」「どのように利用されているのか。」ということについて調べました。そして、調べていく過程で、水質汚染や海洋ゴミといった環境問題に直面しました。そこから、「屋久島の自然のために自分にできることは何か」ということを考えることができました。今回の学習をきっかけに、屋久島の未来のために、考え、行動できる大人へと育って欲しいものです。

「屋久島健児育成を目指したESDの実践」

屋久島町立中央中学校

1 学校紹介

中央中学校は、屋久島北部の「永田中学校」、「一湊中学校」、「宮浦中学校」、「小瀬田中学校」が統合してできた創立11周年となる新しい学校である。「自主性を備え、自他を大切にする心をもって心身ともにたくましい生徒の育成」という学校教育目標のもと、「学力向上」、「心の教育の充実」、「健やかな体の育成」、「自立する力の育成」の4つの重点課題を設定して教育活動を展開している。



全校生徒は、156名(12月現在)で、「自主・友愛・鍛錬」の校訓のもと、生徒は様々な教育活動を通 して充実した日々を送っている。

2 これまでの取組について

本校では、ESDを通して、以下の資質・能力の育成を目指している。

- ・ 地域に見られる現状把握とその解決に必要な知識及び技能
- ・ 持続可能な社会形成のための価値観,解決に向けた思考力・判断力・表現力等
- ・ 地域に見られる課題の解決に向けて主体的・協働的に取り組む態度
- 自ら進んで社会に参画しようとする態度

本校では、上記の資質・能力育成に向けて、屋久島の環境を生かした探究的学習を行ってきた。屋久島が世界遺産に認定された理由の一つである、「自然と人々の共存」について、屋久島にある豊富な人的・物的資源を活用したESDを発達段階に応じて展開し、屋久島のよりよい未来の在り方について考え、それを社会全体に広げていくことができる生徒の育成を目指している(図1)。

本校の総合的な学習の時間の年間指導計画は、これまでの積み上げにより、精錬されてきた系統的な内容であるものの、生徒自身がそれを実感できていない状況が見られた。その理由として、教職員の異動が多く、新しく異動してきた教職員にESDの意義や目的が浸透しないまま教育活動を行われていたことが考えられる。今年度は、5月にESDの意義や目的について全職員で再確認し、本校の総合的な学習の時間の取組をESDの視点から整理した(写真)。これまで、「ESD=環境教育」という概念が強かったが、研修を通して、持続可能な社会づくりには、環境保全を含めた様々な要素が含まれており、最終目標は、「SDGs(持続可能な開発目標)」の達成であることを共通理解できた。実

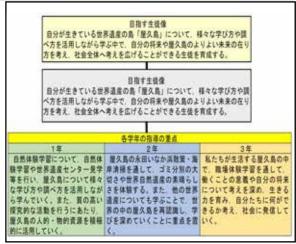


図1 令和3年度の全体構想





写真 ESDに関する職員研修の様子

践を通して、持続可能な屋久島の在り方について考える系統的な取組へとつなげたい。

3 中央中における屋久島型ESDの年間指導計画

本校では、ESDの充実に向けて以下の指導方針を示し、年間プログラムを編成している。

自分が生きている世界遺産の島「屋久島」について、様々な学び方や調べ方を活用しながら学ぶ中で、自分の将来や屋久島のよりよい未来の在り方を考え、社会全体としてのよりよい生き方について考えることができる生徒の育成

生徒自身が総合的な学習の時間を通してどのようなことを探究していくのか把握し、より深い学 びへと展開していくために、総合的な学習の時間における学習サイクル「課題設定」、「情報収集」、 「整理・分析」、「まとめ・表現」と関連付け、系統的な指導計画になるようにした。

「金柱・刀が	Ti, 「よこの「	引り, 糸統的な拍导計画になる	J ホ ノ (C し / C o
学 年	中学1年生	中学2年生	中学3年生
屋久島型 キャリア教育	自然と共生する屋久島を探る 屋久島のまちづくりを探る1	屋久島のまちづくりを探る2 自分の未来を考える1	自分の未来を考える2 屋久島と自分をつなげる1
本校の	持続可能は社会づくりには、どのような		持続可能が社会づくりの担い手
テーマ	考え方や取組が必要だろう	ようなつながりが大切だろう	として自分の生き方を考えよう
ねらい	己に対して深く理解できるな		
観点	知識・技能を養う。 【思考力・判断力・表現力等をで 考力・判断力・表現力等をで 【主体的に学習に取り組む!	態度】地域に見られる課題の 進んで社会に参画しようとする	めの価値観,解決に向けた思 解決解決に受けて主体的・協
学期		活動内容	
	屋久島の現状1:自然環境 【課題の設定】 屋久島に関する文献や映像を通して、屋久島の自然環境について理解し、屋久島が世界遺産に認定された背景について問いをもつ。	屋久島の未来2:平和学習 【情報収集】 平和学習を通して,戦時中の人々の想いや考えに触れ,平和で望ましい社会の 在り方について考える。 【整理・分析】 平和学習を通して分かったことを新聞形式でまとめていく。	進路研究2:職場体験学習 【情報収集】 職場が求める人材,望ましいで事業をしていて事業所での体験を通して、情報収集を行う。 【整理・分析】 体験活動を通して分かったとを新聞形式でまといく。
1 学期	屋久島の現状2:自然体験学習 【情報収集】 大川の滝や小杉谷集落, 環境文化施設訪問等を連ま で、現状にののでは、 での現状にののでは、 での現状にのでは、 での現状にのでは、 での現状にのでは、 での現状にのでは、 での現状にのでは、 での現状にのでは、 での現状にのでは、 での現状にのでは、 での現状にのでは、 での現状に、 での現状に、 での現状に、 での現状に、 での現状に、 での現状に、 での現状に、 での現状に、 での現状に、 での現状に、 でのます。 でって。 とって。 とって。 とって。 とって。 とって。 とって。 とって。 と	屋久島の未来3:地域環境学習 【課題設定】 SDGsが最近ででは、 続可能なを通して、に 続可能なを通して、 で屋外ででは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	進路研究3:上級学校研究 【情報収集,整理・分析】 上級学校の特色について 情報収集を行い,進路選択 に結び付ける。
2学期	屋久島の現状3:学習文化祭 【まとめ、発信2】 自然体験学習を通して 学んだことを基に、屋久島 の自然や生態系の保護と 人々の生活の在り方につ いて発信する。	屋久島の未来4:学習文化祭 【まとめ、発信】 平和学習や地域環境学 習を通して学んだことと 屋久島での生活を結び付け、未来の日本や屋久島の 在り方について発信する。	進路研究4:学習文化祭 【まとめ,発信1】 これまで育ってきた屋 久島での生活と自分たち の進路選択を結び付けて 自分たちの生き方を発信 する。

進路研究1:望ましい
 勤労観とは
 進路研究5:進路実現に向けて 屋久島の未来1: 持続可能な社会とは 【課題の設定】 【まとめ、発信2】 【課題の設定】 これまで積み上げてき 戦争に関する文献、屋久 職業や上級学校の特色 島の環境に関する資料等 を調べたり、 仕事に従事 た経験を生かし, 進路実現 3学期 に向けて自分の考えや生 から, 持続可能な社会の在 している人から話を聴い たりすることで、持続可能 な社会づくりに望ましい り方について問いをもつ。 き方を発信する。 勤労観について問いをも

4 実践紹介(中学1年生)

「屋久島の自然環境の保全と人々の生活の両立に向けて」

屋久島町立中央中学校

本単元「屋久島の自然環境の保全と人々の生活の両立に向けて」では、屋久島が世界自然遺産に認定された理由の一つである、「多くの人たちが暮らしていながら、すぐれた自然環境が残されている」ことに着目し、屋久島の自然を守るためにどのような取組が今後必要なのかを考えていく単元である。また、持続可能な社会づくりで求められるコミュニケーション能力や望ましい人間関係、連帯感の育成も目指していく。













- (1) 単元名
 - 屋久島の自然環境の保全と人々の生活の両立に向けて
- (2) 単元目標
 - ア 屋久島が世界遺産に認定された理由について、意欲的に探究することができる。
 - イ 屋久島の自然環境や生態系の保全と人々の生活を関連付けて、よりよい屋久島の在り方について考えを深めることができる。
 - ウ 諸活動を通して、コミュニケーション能力や望ましい人間関係と連帯感を養う。
- (3) 活動計画(計38時間)

1 1 小学校で探究してき たことを基に、屋久島の とことを基に、屋久島の自然環境について再確 まのよさを認識させる。 いまする。 いまする。 いまりでは、 SDGsとの関連について いまりでは、 SDGsとの関連について また。 いまりである。 いまりである。 いまりである。 いまりである。 これでは、 SDGsとの関連について また。 これでは、 SDGsとの関連について また。 これでは、 SDGsとの関連について また。 これでは、 SDGsとの関連について また。 SDGsとの関連について SDGsとの関連について SDGsとの SDGs SDGs SDGs SDGs SDGs SDGs SDGs SDGs	<mark>習環境</mark> 屋久島の活用 環境文化村セ
たことを基に、屋久島の 化、産業等の面から屋久 ・ 屋久島 自然環境について再確 島のよさを認識させる。 ンター訪!	環境文化村セ
課し考えさせる。	問
題の記録 2 課題設定を行う。 ・ 「豊かな自然=世界遺産認定ではない」という教師側の問い掛けから、生徒に疑問をもたせる。 ・ タブレー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
1 3 自然体験学習に向け ・ 分野ごとにグループ編 ・ 図説屋 て,調べたいことをまと 成を行い,協働して考え ・ タブレ める。	

[4	5 訪問を通して集めた	調べてきたことを視点	 付箋紙 写真
+-	4	情報を各グループで整理し、屋久島が世界遺産	ごとに整理させる。 自然環境を守るために	11支減 子类
整理		に認定された理由とど	は、人々の働きかけが大	
		のように結び付くか考	切であることに気付か	
分析	2	える。	せる。	
		6 調べてきたことを,新	見やすい新聞にするよ	広幅用紙
		聞にまとめる。	う意識させる。	油性ペン
	2	7 ポスターセッション	聞きたい発表グループた思想をよるである。	3.3
		を行い,各グループが調べてきたことを学年全	を選択させる際, 均等に なるよう配慮する。	
		体で共有する。	発表を聞いて分かった	
			こと、疑問に思ったこと	
	<u>-</u>		を記録させる。	
	5	8 屋久島の自然や生態 系の保護と人々の生活	・発表したいことを焦点	• 記録用紙
まと		の在り方に関する発表	化し,学習文化祭に来て くれている人たちに対	
8		方法について考え、準備	してどのような方法で	Street Control
-		を行う。	伝えるのが望ましいか	
発信	0	0 7 + 0 4 + + + + + 1 7	考えさせる。	- K
	6	9 発表の準備を進める。	・ シナリオ,発表原稿作成者を募り,生徒主体で	~
			考えさせる。	・タブレット
	2	10 学習文化祭で発表す	分かりやすさを意識さ	
		る。	せる。	
	1	11 発信内容を検討する。	どのような方法で発信	
		12 地域に発信する。	するか考えさせる。	地域の関係機関
		14 20%(5元日) ひ。		

4 活動の様子



【自然体験学習】 トロッコ軌道が設置された経 緯について,外部講師の話を通し て情報収集している様子



【ポスターセッション】 探究活動を通して分かったこ とを新聞にまとめ, グループで発 表している様子



【学習文化祭での発表(劇)】 これまで調べてきたことを基 にシナリオを起こし, 劇にして発 表している様子

5 成果と課題

(1) 取組の成果

ア 年度当初にESDに関する研修を行ったことで、本校の学習プログラムを、「課題設定」、「情報収集」、「整理・分析」、「まとめ・表現」に整理し、系統的な取組へとつなげることができた。

イ これまでの取組をSDGsと関連付けたことで、未来の屋久島の在り方について考えを深めることができた。

(2) 今後に向けた課題

ア 学びを深めるためにも、生徒自身で探究手段を考え、行動する指導計画にしていきたい。

イ 地域の人的・物的資源の掘り起こしを行い、より充実した活動へつなげたい。

屋久島の自然、産業、歴史、伝統文化を知り、郷土を愛する生徒の育成 〜屋久島らしさと本校の特色を生かした取組を通して〜

屋久島町立岳南中学校

1 学校紹介

本校は北緯30度14分, 東経130度32分, 屋久島の南部に位置し, 神山小, 八幡小, 栗生小の3つの小学校区から通学してくる。校区は, 屋久島御岳の連峰から連なる山々を背にし, 海岸線に沿ったゆるやかな傾斜地が続く平地に細長く伸びていて, 校区の東端の高平から西端の栗生まで約25kmの通学路を要しており, その距離は屋久島の周囲の約四分の一を占めている。

昭和57年4月1日に当時の3中学校(栗生中,八幡中,神山中)が統合し,学級数7学級, 生徒数166人,教職員数18人という規模で,小島地区に「岳南中学校」として開校した。 今年度,創立40年目を迎える。





↑ 【モッチョム岳:屋久島の南部に ある花崗岩からなる山で、山頂は世 界遺産区域の域内にあります。】 岳南中より撮影。



← 【千尋の滝:屋久島中央部に水源を持つ鯛ノ川にある落差60 メートルの滝である。】

2 はじめに

本校では屋久島型ESD(持続発展教育)の一環として、学校行事をはじめ、総合的な学習の時間や各教科、生徒会などの様々な場面で活動に取り組んできた。また、学んだ内容についてまとめ、校内掲示や文化祭、ブログや学校だより等を通して発信している。

身近な環境に目をむけ、様々な活動に参加し、まとめ、発信していくことで、屋久島についての価値に気付き、環境や地域社会について考えて行動できる態度を育成していきたい。そして、将来、持続可能な社会の担い手として、屋久島を含めどの地域でも活躍できるように、屋久島型ESDとSDGsの視点を活用した教育活動を行っている。

3 ESD教育全体計画

ESD (Education for Sustainable Development: 持続可能な発展のための教育)

今,世界では貧困,環境,医療,人権,平和,開発といった様々な問題がある。ESDとは,これらの現代社会の課題を自らの問題としてとらえ,身近なところから取り組む(think globally, act locally)ことにより,それらの課題解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと,そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動である。

 本
 国
 憲
 法

 教
 育
 基
 本
 法

 学
 校
 教
 育
 要

 学
 習
 指
 導
 要

県・町の教育方針

県の重点施策

町の重点施策

<u>+</u>

< 学校教育目標 >

夢の実現に向けて、自ら学び考え行動し、人間力を高める。

< 屋久島型 ESD の基本的な考え方 >

屋久島を持続可能な社会にするために,生活する屋久島を見つめ直し,直接体験(自然・文化等)と地域の人々のつながりから,「自ら学び考え発信する力」を高め,「生きる力」を育成する。

時代・社会の要請 科学技術の発展 環境問題 情報化

国際化

学校・地域の実態 県・町の教育政策 地域社会の要請 生徒の実態

< 本校の ESD の重点目標 >

「総合的な学習の時間」とその他の教科・領域等と関連を図り、SDGs教育とキャリア教育を二つの柱として体験活動や探究的学習を行うことを通して、持続可能な社会の創造を目指し、これからの屋久島を担う力を育む。

< 各学年の目標 >

第1学年

SDGsの観点を通して、郷土「屋久島」の自然・歴史・文化・産業等について体験したり探究する活動を通して、郷土の伝統や文化についての関心を高めつつ、「過去」の状況における課題をまとめ発信する。

第2学年

SDGsの観点から、郷土「屋久島」の 自然・歴史・文化・産業等を中心に、1年 次に調べた「過去」の課題について、「現在」 までの取り組みによる成果とさらなる課題 についてまとめ発信する。

第3学年

SDGsの観点を通して、地域での体験活動等から郷土「屋久島」を中心に「現在」までの取り組みに関する成果や課題を基に「未来」に向けての活動案をまとめ発信する。

地域とのつながりを重視した活動

地域の課題をみつめ、課題意識をもつ

地域の課題を追究しまとめる

地域の課題解決法を模索し, 計画する

_	
	各教科・領域における指導の重点
国 語	自分の考えをまとめたり発表したりするための、論理的思考力や表現力を育む。
社 会	資料を収集・活用したりする活動を通して、社会的事象について興味関心を高め、調べたり、まとめる力を育
	む。
数 学	図表を読み取ったり、書き表したりする力を育むとともに論理的思考力を高める。
理 科	観察,実験の知識や技能を高め,論理的思考力を育む。
英 語	異文化を理解し、自己の考えを表現できる力を育むとともにコミュニケーション能力を高める。
音 楽	音楽の背景となる生活や社会、文化・歴史などと関連付けて、多様な音楽文化を理解する力を育む。
美 術	構成や装飾、伝達、用途などを考える発想・構想力とそれを具現化する表現力・技能を高める。
保健体育	健康の保持増進のための実践力と体力の向上を図り、明るく豊かにスポーツや運動を営む態度を育てる。
技術・家庭	持続可能な社会の実現に向けて、知識及び技能を習得するとともに、情報活用能力や自立心の育成を図る。
道徳	地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めようとする意欲、態度を育む。
	社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めようとする意欲、態度を育む。
特別活動	話合いの仕方やグループ活動の仕方を学び、コミュニケーション能力を育む。
総合的な学習	探究的な学習において、SDGsのターゲットを意識した屋久島の自然や産業、文化に触れ、伝統や歴史を継
	承しようとする心情を育みつつ、活動を通して表現力を養い、将来に渡り自立する能力や態度を育てる。

4 実践の紹介

活動内容

本校では、ESDを「探究型学習」「参加体験型学習」「発信型学習」の視点で、屋 久島らしさと本校の特色を生かしながら教育活動に取り組んできた。

「探究型学習」とは屋久島について様々な人と関わりながら学んでいく活動である。「参加体験型学習」とは屋久島の自然や文化に実際に触れて体験することで、屋久島について愛着を感じることができるような活動である。「発信型学習」とは「探究型学習」「参加体験型学習」で学んだことをまとめ、そして発信していく活動である。また、昨年度から本校のESD教育活動の柱としてSDGsの視点を加え、中学生の目線で過去から未来に向けての課題及び考えられる対策について考え、発表するポスターセッションを本校の活動の中心として実施している。

ここでは、屋久島型ESDを基礎としながら、SDGsの観点に立ち過去から未来に向けての変化や取り組むべき事柄について学び、発信する力を養うことを目標とする。

以下のア〜ウは、これらの視点で、本年度学校での活動を分けたものである。活動 内容の視点においては複合的なものも含まれているので、2つの視点があるものは 「探究・参加体験型学習」などとした。活動の実際において、以下のア〜クについて 紹介する。

- ア 屋久島の現状と課題についてのポスターセッション 【探求・発信型学習】
- イ 古民具から昔の人々の暮らしを学ぶ 【参加体験型学習】
- ウ 学校農園を利用したタンカン栽培 【参加体験型学習】

ア ポスターセッション【探究・発信型学習】

昨年度から取り組んでいるポスターセッションについて、本年度からは屋久島を中心にSDGsにおける17のターゲットについて、生徒たちが 選択し、選んだターゲットの内容について1年生 は『過去の状況と課題』について、2年生は『過去の状況から現

在の状況で改善されたこととなお残る課題』について、3年生は『現在の成果と課題から将来に向けて、誰一人取り残さない社会の実現のためにできること』を提案することとし、調べ発表することにした。



(7) 発表までの流れ

6月に各学年で自分の希望するSDGsのターゲットについて調査を実施し、 1グループ4人を基本とするグループ分けをした。

ポスターセッションへの取組を始める前に、生徒や教職員の取り組みへの視点を明確にするため、6月15日の5校時に杉下真絹子先生を講師としてお招きし、『屋久島型ESD(持続可能な開発教育)に新たな視点を加えてSDGsを考えてみよう!~屋久島と世界を繋げる~』という内容で講演会を実施した。

(イ) 講演会





講演会以降は、杉下先生に本校のESD教育活動アドバイザーとして、実際の授業に可能な限り参加していただき、生徒たちが調べた内容からどのようにまとめていくのかについて方向性を示していただく機会をつくった。

(ウ) インターネットで調べる内容についてアドバイスをいただいた授業の様子 (6月30日)





(I) 授業前の各学年ESD担当者と杉下先生との定例の打ち合わせと、夏休みまでに集めた資料を基に調べた内容をまとめる授業の様子。













(t) 杉下先生によるフィードバックの講習を受け、まとめに深みをもたせる作業を行う。(9月28日)





(カ) ポスターセッションの様子(10月20日)





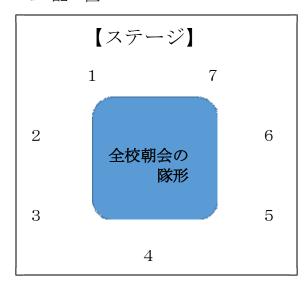


(キ) ポスターセッションの詳細

【集合は体育館中央に全校朝会の隊形】

- a はじめに
 - (a) 学習の流れの確認
 - (b) 1年生の発表者の移動
- b ポスターセッション
 - (a) PRタイム (30秒間×6ないし7チーム=3分間30秒): 聞き手は2チーム 決める。
 - (b) 移 動 (30秒間):自分の聞きたい班の前に移動して座る。
 - (c) 発 表 (5分間)・質疑応答(3分間)
 - (d) 移動 (30秒間):(2) とは異なる班へ移動
 - (e) 発 表 (5分間)·質疑応答(3分間)
 - **※** bの(a) \sim (e) を 2 年生のグループ, 3 年生のグループに入れ替わり合計 3 回繰り返す。
 - ※ 途中休憩あり
 - ※ 前半と後半で役割分担を行い、全員が発表する形式をとった。
- c 振り返り 各自が参観したグループについての感想と評価を行う。
 - ※ 生徒たちがそれぞれ聴いたグループの評価を基に、文化祭で発表する学年 代表のグループを1つ選出する。
 - ※ 生徒が評価した内容を基に、各学年の職員で文化祭に出場させるグループ を1つ選抜する。

d 配置



- ・図中の「1」~「7」は、発表場所
- ・発表しない生徒(全校朝会の隊形)
- ・④の「移動」のときは、③の場所から 直接移動する。

- e ボスターセッション本番
 - (a) 単元名 ポスターセッションで発表しよう
 - (b) 単元目標

調べてまとめた内容について、伝えたいことを分かりやすく説明し、出された疑問について的確に答えることができる。

(c) 活動計画

過程	主な学習活動	教師の関わり	学習環境
導 力	1 ポスターセッションについて 活動内容の確認をする。	時間や動きについて説 明する。	体育館中央
展開	2 1年生から割り当てられた場所に移動する。 3 各グループが順番に体育館中央にいる2・3年生に向けて30秒間アピールをする。 2・3年生はアピールを聴いて聴きたいグループを2つ決め、移動の指示で各グループの前に移動し座る。。	2・3年生に移動の指 示を出す。	
	4 調べてまとめた内容の説明す る。(5分間)	・ 聴く生徒の少ないグル ープに移動する。	

		5 2・3年生は、説明された内容について疑問に思ったことを質問し、1年生は出された質問る。 に答える。
展	開	6 2・3年生は2つ目のグルー プに移動し、5分間説明内容の ポイントを意識して聴く。 聞く生徒の少ないグル ープに移動する。
		7 1年生の2回目を発表し、その後質疑応答をする。
		8 1年生と同じ内容を2年生, 3年生の順で行う。
√ ⁄⁄⁄⁄⁄⁄⁄⁄⁄⁄⁄⁄⁄⁄⁄⁄⁄⁄⁄⁄⁄⁄⁄⁄⁄⁄⁄⁄⁄⁄⁄⁄⁄⁄⁄⁄	+	9 体育館中央に整列し、杉下 先生の講評を聴く。
終	末	10 教室に帰って感想と評価を 書く。

(ク) 文化祭での発表

ポスターセッションで生徒自身が選択し聞いた発表について,それぞれ評価をつけ,各学年のグループの中から,評価の高かった1グループが文化祭で舞台発表を行い,全てのグループのポスターについては展示発表とした。また,文化祭終了後は,校内にポスター展示を行い,いつでも地域の方々に見ていただけるようにした。

(ケ) 文化祭発表と展示の様子(10月29日)







イ 古民具から昔の人々の暮らしを学ぶ (脱穀体験)【参加体験型学習】

今年度は、平内民具倉庫から黒飛淳さんを講師にお招きし、平内民具倉庫に所蔵されている「千歯扱き」、「足踏み脱穀機」、「唐箕」を使って、稲の脱穀及び選別体験を行った。

歴史の授業では資料として出てくる古民具だが、古民具の構造や使い方などの指導を受けて、先人達の知恵の奥深さを学ぶことができた。

イ 古民具から昔の人々の暮らしを学ぶ



【先人達の知恵を学ぶ】



【古民具の便利さを知る体験】

ウ たんかん作り







【施 肥】



【収穫・仕分け作業】

ウ タンカン作り【参加体験型学習】

生徒会を中心に、学校農園にあるタンカン園で屋久島の特産品であるタンカンをつくっている。生徒だけでは難しい作業もあるため、地域の方や保護者の方々の協力を一部頂きながら、年4回の施肥、年1回の摘果作業を行っている。自宅で栽培している2月の果樹学習(総合的な学習)での収穫に向けて、今後も活動を続けていく。

5 成果と課題

(1) 成果

ア 昨年度の取組を踏まえて、今年度からSDGsの17のターゲットを基に屋久島における様々な課題について取り組んだ。3年間の学習を見通し、1年生では屋久島の過去の実態、2年生では過去の実態を踏まえた現代における実態と課題、3年生ではそれまでの学習から導き出した課題に対して、将来に向けて私たちが取り組むべきこと や方策などをまとめ発表した。なお、本年度から本校のESDグローバルアドバイザーとして杉下真絹子先生を講師にお招きし、直接授業に参加していただくことで継続的な指導とアドバイスをいただける環境をつくることができた。次年度以降もこの体制をできるだけ維持しつつ、広い視野に立って考え活動できる生徒の育成に努めたい。

イ 資料でしか学んでこなかった内容について、実際に古民具の使用を体験することで、先人達の知恵やかつての生活の様子についてイメージを膨らませながら学ぶことができた。

ウ タンカン作りでは、日頃自宅や親戚の家で栽培している生徒が中心となって作業を進めることができ、生徒が自主的に活動する取組ができた。

(2) 課題

- ア 限られた時間の中で効率よく活動するために、活動内容について全職員の共通 理解を高めつつ、さらに杉下真絹子先生との連携を進めていく必要がある。また、 ポスターセッション本番で、聞き手側が質問しやすい手立てを構築していく。
- イ 屋久島にある郷土資料と地域人材をもっと広く求め活用していく必要性を感じた。
- ウ 岳南中学校には学校農園としてタンカン園があるが、生徒会の活動だけでなく、 もっと多くの生徒が関わっていけるようにしていき、タンカン栽培を通して屋久 島の産業を考えていけるようにしたい。また、タンカン作りでは専門的な知識や 経験を必要とするため、学校だけでの取組では難しいところもある。そのため地 域の人材の活用や専門的な知識の習得のための講義の時間等をつくり、取り組ん でいく必要があると思われる。
- エ 職員研修を深めることで、各教科やその他の学校活動においてESD教育及び SDGsの視点に基づいて実践できる活動を広げていき、さらに生徒と教師及び 地域が一体となってに取り組めるようにしていきたい。

6 おわりに

岳南中学校の様々な活動の中に屋久島型ESDの視点を見出すことができる。SDGsの観点に立ち、これらの活動の事前・事後の活動を充実させていくとともに、今年度の成果と課題を職員で共有して研修を深め、共通実践していけるよう努めたい。

屋久島について興味・関心を高め、今住んでいる地域に愛着をもち、将来に向けてどのようなことに取り組んでいく必要があるかを考え、行動することができる生徒の育成を図りたい。また、生徒自身が情報を発信していく場を設定し、各活動への意欲を高め、自主性を育み、自尊感情を養うことも大切であると考える。

「郷土を愛し未来を拓く屋久島型ESDの実践」 ~ SDGsとの関連 ~

屋久島町立安房中学校

1 学校紹介

屋久島は、大隅半島佐多岬南南西約 60km の海上に位置する周囲 130km の円形に近い五角形 の島である。豊かで美しい自然が残され、島の90%が森林であり、島の中央部の宮之浦岳を 含む屋久杉自生林や西部林道付近など、島の面積の約 107.47km2 が 1993 年にユネスコの世界 自然遺産に登録された。

本校は島の東部に位置しており、6集落を有している。生徒数1年29名、2年24名、3年25 名,全校生徒 78 名の小規模校である。学校教育目標「郷土を愛し、自ら学び、たくましく、 共に生きる」の具現化に向けて,特色ある教育を推進している。

2 本校における屋久島型ESD

本校では、総合的な学習の時間を中心に、教育活動全体を通して屋久島型ESDに取り組んでい る。SDGsの視点を活用し、屋久島を持続可能な社会にするために、世界自然遺産を素材にした 学習を通して,直接体験(自然,文化等)と地域の人々のつながりから,「学び・考え・行動する力」 と自尊感情を高め「生きる力」を育てるとともに、これからの屋久島の担い手を育成していくこ とを目標としている。

まずは、「屋久島が好きだ」と言える、さらには「屋久島の自然や産業、地域性等のことを説明 できる」ことを第一に、各学年テーマを設定し、3年間を通して、系統的に学習を進めている。

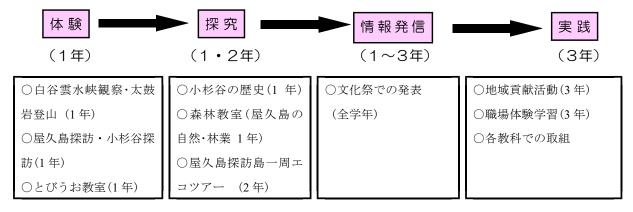
(1) 各学年のテーマとSDGsとの関連







(2) 3年間の「総合的な学習の時間」における屋久島型ESD(「屋久島学」)



3 持続発展教育(ESD)全体計画

ESD (Education for Sustainable Development: 持続可能な発展のための教育)

今,世界では環境,貧困,人権,平和,開発といった様々な問題がある。ESD とは,これらの現代社会の課題を自らの問題とし てとらえ、身近なところから取り組む(think globally, act locally)ことにより、それらの課題解決につながる新たな価値観や行動 を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動である。

日本国憲法 教育基本法 学校教育法 学習指導要領

県・町の教育方針 県の重点施策 町の重点施策

< 学校教育目標 >

郷土を愛し 自ら学び たくましく 共に生きる

< 屋久島型 ESD の基本的な考え方 >

屋久島を持続可能な社会にするために、世界自然遺 産を素材にした学習を通して、直接体験(自然・文化 等)と地域の人々のつながりから、「学び、考え、行 動する力」と「自尊感情」を高め、「生きる力」を育

時代・社会の要請 科学技術の発展 環境問題 情報化 国際化

学校・地域の実態 県・町の教育政策 地域社会の要請 生徒の実態

< 本校の ESD の重点目標 >

「総合的な学習の時間」とその他の教科・領域等と関連を図り、「屋久島」学とキャリア教育を二つの柱として体 験活動や探究的学習を行うことを通して、持続可能な社会の創造を目指し、これからの屋久島を担う力を育む。

< 各学年の目標 >

第1学年

郷土「屋久島」の自然・歴史・文化・産 業等について体験したり探究したりする活 動を通して、郷土の伝統や文化を継承しよ うとする心情を養う。

第2学年

郷土「屋久島」について情報を発信した り、他の地域について学んだりする活動を 通して、改めて郷土のよさに気付かせると ともに、地域社会における課題を考え、共 生社会の実現に向けて取り組む意識をもた

第3学年

地域での体験活動等を通して郷土 「屋久島」について学んだことを生か し、様々な視点から地域社会のために 自分たちができることを考え、行動し ようとする態度と実践力を育む。

ESD を通して育む力

- 多面的,総合的なものの見方,考え方
- コミュニケーション能力 持続可能性への関心

- 情報収集・分析能力
- 〇 行動力
- 学び方

地域における「人・もの・こと」とのつながりを重視した活動

地域の中で問題を発見し、問題意識を明確にする

地域の中で問題を追究し、まとめる

地域の中で行動をおこす

	各教科・領域における指導の重点				
国 語	自己の考えを発表・表現するための言語能力を育む。				
社 会	社会的事象を調べたり、資料を収集・活用したりする力を育む。				
数 学	図表を読み取ったり、書き表したりする力を育むとともに論理的思考力を育む。				
理 科	観察、実験の知識や技能を高め、論理的思考力を育む。				
英 語	異文化を理解し、自己の考えを表現できる力を育むとともにコミュニケーション能力を高める。				
音 楽	音楽の背景となる生活や社会、文化・歴史などと関連づけて、多様な音楽文化を理解する力を育む。				
美 術	構成や装飾、伝達、用途などを考えた発想や構想を生活に生かそうとする意欲と態度を育む。				
保健体育	健康の保持増進のための実践力と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。				
技術・家庭	持続可能な社会の実現に向けて、知識及び技能を習得するとともに、情報活用能力の育成を図る。				
道徳	地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めようとする意欲、態度を育む。				
	社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めようとする意欲、				
	態度を育む。				
特別活動	話合いの仕方やグループ活動の仕方を学び、コミュニケーション能力を育む。				
総合的な学習	屋久島の自然や産業、文化に触れ、伝統や歴史を継承しようとする心情を育むととせて、地域がなれて自分だちができること				
	を考え、行動しようとする態度を養う。				

4 実践紹介(例)

1年 屋久島探訪(森林教室) SDGs関連







(1) 単元名

郷土「屋久島」の自然・歴史・産業等について体験・探求しよう。

(2) 単元目標(ねらい)

- ① 集団生活のきまりや公衆道徳を守るなど、集団行動を通して、責任ある態度を身に付けさ せる。
- ② 平素と異なる生活環境の中で、人間としての生き方についての自覚を深めさせる。
- ③ 自然の美しさに触れ、自然に親しむ中で、郷土・屋久島の良さに気付き、郷土を大切にす る心を育む。

(3) 活動計画

過程	主な学習活動	教師の関わり	学習環境
導入	アイスブレイクを行う。	・ 外部講師と生徒とを出	校庭
		会わせ,学習への意欲を	
		高める。	
展開	・ 校庭の植物を観察する。	・ 生徒と共に講話を聞く	校庭
	外部講師の講話と地図を基に,校内に	と共に、必要なところは	グループ
	生息している植物を観察する。	メモや写真をとり記録に	(5人一組)
	屋久島固有の植物や外来種により生態	残す。	
	系が壊されていることなども話を伺うこ		
	とができ,その扱いを含め匂い手ざわり		
	も感じることができた。		
	・ 種の違いを見て,発見する。	・ 生徒と共に講話を聞	校庭
	外部講師の説明を受けながら,植物図	き、写真を撮り記録に残	グループ
	鑑を使い種の違いを観察し,気付くこと	す。	(5人一組)
	ができた。		• 被服室
			グループ
	「シカと森林のカード」を使って屋久	カードゲームに参加	(6人一組)
	島の森を考える。	し、難しさを共有する。	
	カードゲームを通して生態系維持の難	また、どんなことが必要	
	しさや大切さを学んだ。	か問題提起を行う。	
終末	・学んだことや感じたことを振り返る。	振り返りながら今でき	教室
		ることを考えさせる。	個人

(4) 活動の様子







【森林教室の様子】

外部講師を招き,世界の林業について講話していただいた後,校庭の散策を行い,校庭に生えている植物について,説明を聞いたり観察したりした。







【森林教室の様子】

外部講師を招き,各グループでカードゲーム などを通し,屋久島の生態系や外来植物につい て学習した。

(5) その他の主な活動の様子







【白谷雲水峡観察・太鼓岩登山の様子】

屋久島を体験的により深く学ぶことを目的と して、白谷雲水峡観察、太鼓岩へトレッキング した。屋久島の自然のすばらしさを体感した。







【文化祭での発表の様子】

郷土「屋久島」の森をモザイクアートの作品 に作り上げた。また、屋久島の自然や美しさ、 この地に伝わる伝説等を1年生全員で発表した。







【とびうお教室の様子】

外部講師を招き、屋久島の特産物であるとび うおやとびうお漁、歴史、食文化について学ん だ。また、1年生全員がとびうおを三枚におろ し、郷土料理の調理実習も行った。







【屋久島探訪事前学習の様子】

外部講師を招き,屋久島エコツーリズム構想 を踏まえて地域の環境,産業,歴史などについ て学んだ。また,学習後屋久島を一周し,屋久 島の良さや強み,課題,自身の取組等を考えた。



屋久島の課題や地域のために自分たちにできることを考え実践した。海岸清掃を通して,これからの屋久島の環境問題について,深く学び考えた。



【校内研修の様子】

外部講師を招き、ESD・SDGsについて 学ぶ機会を設けた。「大きな柱」「生きる力」「学 びのその先」「必要なスキル」等、指導・実践へ とつなげるために、研修することができた。

5 成果と課題

(1) 成果

- ① 体験活動を中心とした様々な学習を通して、郷土「屋久島」への興味・関心を高めることができた。
- ② 郷土「屋久島」を愛し、誇りに思い、大切にしていきたい、守っていきたいと持続可能な社会・屋久島にするために、深く考えることができた。
- ③ 情報発信活動や実践活動を通して、達成感、充実感を味わわせ、自分たちにも屋久島のためにできることがある、役立つことができるという自信をもたせることができた。

(2) 課題

- ① 小学校から中学校まで9年間の屋久島型ESDとして、系統性を図ったカリキュラムを編成する必要がある。
- ② 持続可能な社会を創造するために、SDGsの視点からの学習の更なる充実を図る必要がある。
- ③ 地域・保護者に屋久島型ESD・SDGsの取組を周知し、地域や関係機関等との連携を深める。

6 おわりに

屋久島型ESDの学習を通して、生徒たちは郷土「屋久島」を大切にしたいという心情がとても高まっている。また、持続可能な社会の創造を目指し、郷土の発展に尽くさなければならないという思いも育ってきている。これからも自分たちの郷土「屋久島」に誇りをもち、すばらしい自然・文化・伝統を受け継いでいくために、教育活動全体において屋久島型ESDの視点やSDGsの視点を踏まえたカリキュラム・マネジメントを行っていきたい。

Ⅱ報告書

第12回世界遺産学習サミットin屋久島 世界自然遺産の島 屋久島から これからの世界を考えよう ~2030年へ向けて,共に歩もう~ 開催報告書

期日 令和4年2月10日(木)~12.日(土)会場 屋久島町役場 他

1 目 的

世界遺産を有する地域の児童・生徒らが共に学び共に考える機会をもつことで、お互いの存在価値やこれからの生き方について考えたり、世界遺産を有することの価値を再発見したりすることを通して、2030年に向けて、持続可能な社会の担い手となる児童・生徒の育成を図る。

2 大会概要

第12回世界遺産学習全国サミットin屋久島は、当初、一日目を「屋久島から学ぶ日」二日目を「屋久島を体感する日」三日目を「共に思いを広げる日」として計画していましたが、新型コロナウイルス感染症オミクロン株の拡大を受け、屋久島町と全国の参加者とをオンラインでつなぎ、現地参集の数を少なくしたハイブリット型で実施しました。

(1) サミット1日目

サミット1日目は、安房小・永田小・八幡小の3校がこれまでに活動を発表 したり、活動を通して学んだことをこれから自分の生活にどう生かしていくか 宣言したりする子供たちの姿がありました。



【永田小学校】



【八幡小学校】



【安房小学校】

また、岳南中では、探究・発信型学習として、SDGsの17.の目標を基に「過去・現在・未来」の観点から調べ、まとめたことをポスターセッション形式で全国の参加者や生徒間で発表しました。オンラインで視聴した、京都市教育委員会の指導主事から「屋久島の特産物にはどんなものがありますか。」の質問があり、生徒が屋久島の特産品について返答するやり取りもあり、ICTを活用した新たな活動の様子も垣間見ることができました。

授業後に開催された交流会では、屋久島型ESDのこれまでの取組を各担任が説明したり、本町が委嘱するESDアドバイザー(屋久島環境文化研修センター小薗さん、福元さん、中村さん)らの実践の紹介があったり、ESDグローバルアドバイザー(杉下さん)と学校との連携やこれまでの取組について説明したり

しました。また、オンライン上で参加した全国の教育関係者からも多くの質問 が寄せられ充実した交流会となりました。





【岳南中学校】





【交流会の様子】

(2) 各校の活動

(2) 谷仅の宿		
学校名 参加クラス	指導者	単元と活動のねらい
屋久島町立 安房小学校 4年い組 屋久島町立	窪田 あずさ	単元名「水に学ぶ」 子供たち自身の住んでいる世界自然遺産の島「屋久島」の魅力を再認 識させ、郷土愛を育むことをねらいとした学習活動です。この学習をと おして、屋久島の豊富で美しい水を大切にしたいという思いや、屋久島 の自然環境を守り続けるといった実践的な態度を育んでいきます。 単元名「発見!発信!屋久島の自然」
八幡小学校 3年1組 4年1組	橋口 和真 當間 いづる	屋久島国立公園や世界自然遺産,自然保護活動について調査し,自分たちにできる発信方法や自然保護活動を考え実行する学習を通して,主体的に学び,考え,行動する力を育てることをめざす単元です。
屋久島町立 永田小学校 3・4年1組	吉富 祐子	単元名「水と共に生きる」 世界自然遺産の島,屋久島の魅力について,体験活動や土面川調査,E SDアドバイザーの指導を根拠に,水を通して追究し,現在及び将来にわたって美しい水(環境)を保全させていくための,郷土愛を育むことを目指す単元である。
屋久島町立 岳南中学校 1年1組 2年1組 3年1組	長嶺 剛 黒木 雄太 伊藤 和輝	屋久島を中心にSDGsにおける17のターゲットについて,生徒たちが選択し,選んだターゲットの内容について1年生は『過去の状況と課題』について,2年生は『過去の状況から現在の状況で改善されたこととなお残る課題』について,3年生は『現在の成果と課題から将来に向けて,誰一人取り残さない社会の実現のためにできること』を提案。

(3) サミット2日目から3日目

【オンラインポスターセッション企画・立案・実施までの取組】

3日目に予定していた児童・生徒による会場に参集してのポスターセッションは新型コロナウイルス感染症オミクロン株の拡大を受け、中止となりました。しかし、長谷部葉子先生とゼミ生の3名(小檜山さん、森さん、後藤さん)の御尽力いただき、各校から提出された動画を活用した、オンラインポスターセッションという新たな発表、交流の形で実施することができました。

【実施までの流れ】

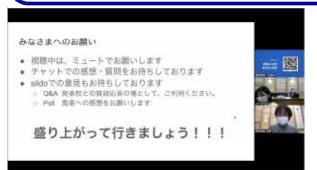
発表動画の提出 TeamsやGoogleドライ ブを利用した提出 →大容量データの送付 方法の共通理解 発表動画の配信順番の検討 ジャンルや発表の方法,メッセージ性を多面的に吟味

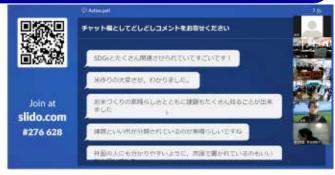




当日の様子

コーディネーターは来島したゼミ生3名が実施してくれました。オンラインポスターセッションの参加者は、町内の児童・生徒以外にも、慶応義塾大学SFCの学生も参加し、より多くの交流や意見交換が実現するように、チャット機能を活用して実施しました。





(4) サミット3日目午前の部【町内・県外の実践発表】

3日目は、サミット最終日「共に思いを広げる日」として、午前中に、町内外の先生や教育関係者、屋久島高等学校普通科環境コースの生徒による発表、(3)で報告した研究ゼミ生3名による新たな形式でのオンラインポスターセッションで参加した各小・中学校の子供たちが、各校の取組のよさをチャットで伝え、土成りしばりしまります。













(5) サミット3日目午後の部【金岳中発表】

海洋プラスチックごみ問題に当事者として取り組む金岳中の発表では、発表を行った金岳中一年貴舩桃さんは発表の中で「人間が作り出したゴミは人間がどうにかしなくてはいけない」と述べ、国際的な問題である海洋ごみ問題について発信してくれました。





【海洋ごみで制作したSDGsのロゴ】



(6) サミット 3 日目午後の部【記念講演】

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス環境情報学部准教授長谷部葉子先生による記念講演「ここ屋久島からこれからの世界(未来)を考える」の演題で、これから求められる人材とはどんな人材なのか、長谷部先生のこれまでの経験を基に、御講演いただきました。



3 閉会行事

閉会行事は、本サミットの宣言として、安房小学校4年い組の子供たちの「地球星歌」 の合唱にのせて、大会を振り返りました。

4 まとめ

本サミットを屋久島町で開催することに手を挙げたのは、令和元年の11月の頃でした。翌年には、東京オリンピックを控え、日本全国がおもてなしの雰囲気に包まれていました。その約1か月後、中国の武漢で感染が初めて認められた新型コロナウイルス感染症が引き起こす混乱や教育界への影響について、知る由もありませんでした。そして、令和2年2月ウイルスへの感染が国内で数例認められる中ではありましたが、第10回の世界遺産学習全国サミットin奈良が開催されました。屋久島町も大会へ参加し、多くの先進的な取組を学ばせていただきました。また、GIGAスクール構想の初年度ということもあり、オンラインを活用したネットワーク作りも進めることができました。

大会実施に向けて、屋久島町は、離島であることを踏まえ、急速にICT化を進める必要がありました。令和2年度は、ESD先進校として、数校を指定し、オンラインによる活動交流を実施したり、奈良市の小学校とオンラインでの活動交流型の授業づくりを行いながら、ICTを活用した授業づくりを進めました。また、島内の人材活用についても進め、環境文化研修センターの職員をESDアドバイザーとして委嘱しました。さらに、JICA職員として世界で活躍された方をESDグローバルアドバイザーとして委嘱し、各学校の教育活動の充実に協力をもらいました。

令和3年度は、2月のサミット本番に向けて、令和2年度に整えた環境に加え、 屋久島版SDGsボードゲームの作成、慶応義塾大学湘南藤沢キャンパス環境情報学 部准教授 長谷部葉先生との連携、奈良市立辰市小学校、平城小学校と連携したテーマ共有型の授業づくりなどを推進しました。

2月のサミット期間中は、3年間の取組を各学校や実践家が充実した発表を行いました。当初の計画通りの実施とはなりませんでしたが、ICTを活用した新たな学習環境の中で、屋久島ならではのサミットとなりました。

今後は、本年度の実績を基に、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスと「次世代を担 う人材育成に向けた連携協力協定」を結び、子供たちの教育環境の充実を進めてい きます。また、奈良教育大学ESDティーチャー育成派遣事業の活用も行います。さ らに、ユネスコスクール加盟を進める学校もあるため、ESDグローバルアドバイ ザーを派遣し、学校へのサポートを実施します。

最後に、本サミットに向けて、コロナ下でありながらも視察を受け入れていただいた奈良市、宗像市、綾町の皆様、大会に参加に向けて多くの御示唆をいただいた福岡教育大学石丸哲史様、教育活動の充実に向けて尽力いただいた各学校・事例発表者の皆様、協議会会員の皆様、協議会事務局の奈良市教育委員会の皆様、多大なる御支援・御協力を賜りましたことに感謝申し上げます。

ESDグローバルアドバイザー活動報告

「ESDグローバルアドバイザーの取組と今後について」

杉下真絹子

1 はじめに この1年を振り返って

今年度の第1回町小・中学校持続発展教育(ESD)担当者等研修会にて「世界の貧困課題から学ぶ:私たちにできること~SDGs/ESD研修」というタイトルで研修して以来、様々な形で教育委員会や学校関係者と関わってきた。

私自身これまで 20 年の間、アフリカや東南アジア諸国の現場で国際協力分野 (特に地域保健やコミュニティ開発) に携わり、SDGs の前身ともいえる MDGs (ミレニアム開発目標 2000-2015) の達成に向けた様々な国際プロジェクトに関わってきた。その経験が屋久島の教育現場でも新たな形で活かされることになった。

また、私はアドバイザーという立場のみならず一人の親として、10年、30年、50年後の子どもたちの未来や地球について、学校や地域の人たちと一緒に考え、対話する機会を頂いたと感じている。そして、新たな自分自身の再発見と成長にもつながっているとも言える。

2 活動の実際

2021年6月から2022年2月までの9か月間に、ESD担当者研修会をはじめとして、7小中学校から依頼を受け、合計25回ほどの講演会、教員研修や授業などを行ってきた(詳細は以下の表参照)。

また、研修会や授業を行う際には、次のような「グローバル視点や経験」を 土台とするアプローチで提供することに努めた:

- 1) ESD の根幹にある think globally, act locally (世界規模で考え、ここ屋 久島から行動する) はどういう意味なのか、なぜ大切なのかを再考し、研修や授業に取り入れて実践していく。
- 2) 屋久島の郷土や伝統文化の素晴らしさそして課題は、グローバル視点や比較があるとより自分たちのこと(屋久島)のことについて理解が進む。
- 3) 予測不可能な時代に突入し、これまで日本で「当たり前」の暮らしが崩れ 始めている。だからこそ、例えばこれまでアフリカで課題になっている 「(当たり前だった安全な水が)ない」とどうなるの?と問いかけ想像す ることで、これからの生きる力を育む土台となる。
- 4) 何気ない私たちの消費活動が地球規模の環境破壊、食品ロス、世界の格差 を生んでいることを理解することで、次の行動になる。
- 5) 先進 ESD 事例を交えながら、総合・探究の学習では、正解を導く「ティーチャー」ではなく、子供たちの創造性を引き出す「ファシリテーター」になり、トライ&エラーで試してみようという遊び心と勇気を持ってみる。

これまで関わった教員研修や子供たちへのモデル授業の内容は以下のとおり:

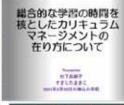
屋久島町ESDグローバルアドバイザー業務 (2021年6月~2022年2月):教員研修、モデル授業など

学校	タイプ	研修内容
教育委員会	ESD担当研修① ESD担当研修②	「世界の貧困課題から学ぶ: 私たちにできること&DGs/ESI研修」 屋久島型ESD教育に期待すること ~ESD教育の充実に向けた探求的な学習への提言~
岳南中	教員・生徒講演 クラスサポート	「屋久島型ESDに新たな視点を加えてSDGsを考えてみよう! 〜屋久島と世界を繋げる」 屋久島・課題解決に向けた取り組み 世界遺産学習サミットポスターセッション
安房中	教員研修	「屋久島の教育を通してグローカル人材を育てよう!」
八幡小	教員研修 生徒講演	「SDGsを取り入れた新たな屋久島型 八幡小型ESDの可能性を考える」 「世界は多様性に満ちている」(人権教育)
神山小	教員研修① ふるさと先生 モデル授業 教員研修②	「総合的な学習の時間を核としたカリキュラムマネージメントの在り方「ぼくたち、わたしたちの旅立ち」(キャリア教育)「SDGsと地球とわたし」「神山小のみりょくの先を見据えて〜総合の学習計画に向けて」「アフガニスタンヘランドセルギフト」(国際理解)
金岳小中	教員研修 生徒授業	「SDGsを取り入れた新たな金岳小中型SDの可能性を考える」 【水】で世界とつながろう!
奈良•屋久島	オンライン授業	水の力~SDGsの実現へ
奈良辰市小	オンライン授業	住みやすいまちづくりとグローバル人材





















具体的には、岳南中学校では、国際協力分野で使われている社会課題の解決のための手法(問題分析、目的分析、関係者分析など)を導入して、各グループでの情報収集、分析、ポスター発表のための技術サポートを行った。また、神山小学校では、総合的な学習の時間を核としたカリキュラムや計画を見直すべく教員研修を実施したり、SDGsのモデル授業を行うなどした。さらに八幡小学校では、「人権」という切り口から全校生徒への授業を行った。また、奈良と屋久島の複数の小学校を繋ぎ「水の力~SDGsの実現へ」というオンライン授業を行うなどした。

3 ESD グローバルアドバイザーの提言と今後の活動について

1) グローバルな風を屋久島に

国際協力のグローバルな現場で社会課題に取り組んできた専門家として、また外部人材という立場を活かして、「美しく豊かな地球を創造する」子どもを育む教育をどう実践できるかについて、新しい視点や違う角度から教育委員会や学校そして地域のみなさんと一緒に探究する場を提供していく。



2) ユネスコスクール加盟校へのサポート

25年ぶりにユネスコが出した「Remaining Our Futures Together- A new social contract for education」という報告書に、2050年を見据えた教育の未来についての指針が書かれている。屋久島でもユネスコスクール加盟を目指している学校が数校あるが、今後それらの学校を中心に、屋久島が日本さらにはグローバルレベルでも ESD を推進し、牽引できる学校になることを目指して、伴走しながらサポートしていく。

3) <u>子供たちによる発信、行動、提言できる仕組</u> みづくり

具体的なアクションに移すだけでなく、子供による親への ESD 教育 (Child to Parent Education)、さらには地域や政策策定者に対して、社会課題を解決するアイデアを発信し提言できる仕組みを提案していく。



4) 子供たちが社会課題解決の担い手になる環境づくり

子供たちの学びが教室内にとどまらず、地域社会の課題設定や解決と結びつける環境を作り、子供も大人も同じ地域づくりのプレイヤーとしての位置づけできるような仕組みを提案していく。

5) 持続可能性の生きた手本となる

どれほど環境や郷土の重要性を教えても、学校生活や学習環境が自然や他者への想像力を育むような在り方でなければ、ESDの目指すところの意識変容はなかなか実現されない。そのためにまずは教員や大人が ESD 値観を自分自身の生活に取り込んで内面化し、持続可能性の「生きた手本」として存在することの重要性を伝えていく。



ESD アドバイザー活動報告

「1期目 ESD アドバイザーの取組と今後の展望」

福元豪士・小薗正臣・中村幹

1 はじめに

学校と屋久島の様々な環境(人・もの・事)とを結びつけ、屋久島型 ESD の更なる充実をめざして、屋久島町 ESD アドバイザーとして1期目の活動に取り組んできました。特に、町内小・中・高等学校では SDGs の理念を取り入れたカードゲーム「ゲットザポイント」を活用しながらの出前授業、また安房小学校、永田小学校等へは総合的な学習等での ESD 支援を行ってきました。各学校の先生方の積極的な取組により、この1年間で、延べ1000名を超える子どもたちと持続可能な未来を思い描くことができました。

2 活動の実際

【安房小での取組】

各学年において ESD 支援を行い、特に、4年生の単元「水に学ぶ」の学習においては、年間を通して、継続的な関わりをしてきました。担任教諭と話し合いながら年間の探求内容を考え、屋久島の豊富で美しい水を大切にする心や、屋久島の自然環境を守り続ける心を育むために、子どもたちにどのような学習環境を提供できるかを模索し続けました。

そこで、フィールドワークでの ESD 支援を積極的に行い、「上流・中流・下流の水質調査」「海外の自然環境調査」「水の利用を学ぶ産業見学」などの体験の場を提供し、学習目的の達成にむけて支援してきました。



源流部水質調査の様子



水質調査によるおいしい水比較

【永田小での取組】

3・4 年生を対象に、集落の自然環境と自分たちの生活とのかかわりについて知ることを目的に、総合的な学習の単元で ESD 支援を行いました。児童たちが、生活用水や遊びの場として普段利用している土面川が、どんな川なのかを知るために河川の生物調査を行い、自分たちの生活が自然環境や生き物たちにどのような影響を与えているかを自覚できるようにしました。そして、さらに永田集落の自然環境を守るための具体的行動を考えることで、屋久島の自然に対する興味関心や、集落に対する郷土愛を育めるよう支援してきました。



土面川生物調査の様子

【SDG s 教材屋久島版ゲットザポイント作成への取組】

屋久島町内約700人の小中高生たちに実施したSDGs ボードゲーム「Get The Point」の屋久島版を作成し、2022年2月12日(土)、「第12回世界遺産学習全国サミットin屋久島」の開催中にお披露目しました。

「屋久島版 Get The Point」は、地域貢献活動に積極的に取り組んでいる「sankara hotel & spa 屋久島」のサンカラ基金により作成し、アイテムカードには、屋久島町内の小・中・高校生への、特産物や地域貢献、課題感などのアンケート結果をもとに、アイテムをカードに反映しています。例えば資源カードには「飛び魚」や「たんかん」、アイテムカードには「屋久島地杉の家」や「首折れ鯖刺身定食」、さらに水力発電や植林、オーバーツーリズム等の要素も盛り込まれています。





3 ESDアドバイザーの今後の活動について

屋久島は 2023 年に世界自然遺産登録 30 周年を迎えます。樹齢 1000 年を超える屋久杉のように、1000 年先まで人と自然との相互のつながりを感じながら「自然との共生」を文化としてより根付かせていかなければなりません。そのために、私たち ESD アドバイザーは、屋久島町教育委員会と各学校で取り組む ESD 実践と連携し、オリジナルゲーム「屋久島版 SDG s ボードゲーム」の開発から始まる「教育」の循環を推進していきます。 2030 年の SDG s 達成を目指し、私たちは率先して地域社会の創り手を育む教育に協力していかなければなりません。多様な主体を教育というかけ橋でつなげ、地域の課題を自分ゴトとして捉え行動を起こす人材養成の仕組みづくりを行い、子どもも地域づくりの一員となれる地域教育プラットフォームコミュニティの構築に取り組みたいと考えています。

世界遺産全国学習サミットin 屋久島での活動を振り返って

長谷部葉子研究会 総合政策学部2年 森瑞季

1活動概要について

「世界遺産全国学習サミットin 屋久島」以前では、屋久島町立八幡小学校、神山小学校、宮浦小学校、中央中学校でお時間をいただき、授業を行いました。事前に各学校の先生方との打ち合わせを通してテーマを決め、オンラインで児童・生徒の皆さんと対話しました。どの学校でも、「自分自身を知ること」「屋久島に住んでいることの価値に気づき、屋久島を好きになり興味を持つこと」「屋久島で育った自分自身の将来を想像すること」を目的に授業を行いました。また、それぞれの学校からのご要望や参加人数に合わせて、オンライン授業という特性を活かし、屋久島に来ていない他の大学生にも協力を得て、授業内でワークショップを実施しました。以下が、各学校で実施した授業内容です。

2022年2月8日

【八幡小学校】

3時間目「大学生に一緒に紹介しよう!屋久島ってどんなところ?」

対象:3・4年牛(15名)

内容:長谷部先生からのお話、大学生からの自己紹介、児童による発表・コメント、質問コーナー、まとめ

4時間目「屋久島を世界へ、世界を屋久島へ」

対象:5.6年生(25名)

内容:長谷部先生からのお話、大学生・児童の自己紹介、クイズ、まとめ

【神山小学校】

5・6時間目「大学生と一緒に!屋久島宝探し!」

対象:3・4・5・6年生(48名)

内容:長谷部先生からのお話、大学生の自己紹介、アイスブレイククイズ、絵を描くワークショップ、発表、まとめ

2022年2月9日

【宮浦小学校】

3・4時間目「屋久島で当たり前に"生きて"いることの"当たり前"のすばらしさ」

対象:6年生(30名)

内容:長谷部先生のお話、大学生の自己紹介、絵を描くワークショップ、未来への宣言タイム、まとめ

【中央中学校】

5・6時間目「自分の"好き"をカタチにする、夢を実現する屋久島で生きる」

対象:全校生徒(156名)

内容:長谷部先生の講義、おにぎりプロジェクト参加生徒からの発表、大学生の自己紹介、絵を描くワークショップ、まとめ

また、「世界遺産全国学習サミットin 屋久島」の本番では、2月12日(3日目)に対面で実施予定であった屋久島の小中学生によるポスターセッションが急遽オンライン開催となりました。屋久島町教育委員会であり、大変お世話になっている福留忠洋さま(以下、福留先生)からのご依頼を引き受け、普段からオンライン授業を受けている大学生として、オンラインでも学びのあり、双方向性のある時間になるように、司会進行及びオンライン機械操作なども行いました。他にも、ポスターセッションの後、私たち大学生の担当教諭である長谷部葉子教授による特別講演にて、夏にオンラインで行った「おにぎりプロジェクト」の紹介や屋久島での実践を振り返っての学びを共有させていただきました。

2 活動本番までに生じた課題とそれらの解決に向けた取り組み、発揮したと考える自身の資質・ 能力について

活動本番までに生じた課題は以下のようなことがあげられます。

まず、授業を実施するに当たっての打ち合わせが本番直前に行われたため、授業について吟味する時間が少なかったことです。特に、今回は長谷部先生に依頼をされた授業で大学生がお手伝いをする立場として関わったため、普段研究会で0からワークショップを企画・運営している私にとっては、少し企画をするのに不自由を感じました。また、他の大学生の協力を募るに当たっても、時間の制約はとても大きな問題でした。他にも、屋久島の子どもたちと関わるのは初めてであり、あまり屋久島についても、子どもたちについても知識・理解が少ないことも、授業内容を企画する上での懸念点でした。つまり、授業をデザインするに当たっての時間と情報の制約が今回の大きな課題でした。

以上のことを解決するために行ったことは以下のようなことがあげられます。まず、できるだけ情報を得られるように意識して行動しました。屋久島役場にあるあらゆるパンフレットを頂いたり、屋久島での少しの移動でも、「景色」というような何気ない情報から子どもたちが住む環境やその文化を理解するように試みました。その上で、授業の企画に当たっては、長谷部先生、協力して頂いている各学校の先生方、屋久島に滞在させて頂いた大学生の「やりたいこと」を確認しながら、運営側全員が共通認識を取れるようにコミュニケーションを十分に行うことを意識しました。

授業やポスターセッション本番中では、これまでの研究会での活動経験の全てを活かせたと実感しています。私は、屋久島に訪れるまで、オンライン・オフラインに関わらず、おにぎりプロジェクトを代表とした様々なワークショップを企画・実施(運営)してきました。そのため、授業中の時間管理やブレイクアウトルーム作成というような機械操作、参加大学生への情報共有など、事務的な面で大いに活躍できたと実感しています。また、中央中学校での授業では、160名以上が参加する中で全体のファシリテーションをさせていただき、常に笑顔でいることで生徒を巻き込み、休憩中も中学生に話しかけるなど、楽しい雰囲気にすることを意識しました。もちろん、笑顔でありながらも、裏での大学生への指示や時間管理などもしっかりと行いました。他方、ポスターセッションでは、これまでのたくさんのオンラインイベントの実施・参加経験を活かし、Zoomの他にイベントコミュニケーションツールであるSlidoの使用を提案しました。Slidoの使用経験があったというだけでなく、教室から子どもたちがどのようにポスターセッションに参加するかわからない状況の中で、いかなる場合でもコメントを見易くできるようにと、リスクマネジメントの能力も発揮されたと感じています。本番中では、積極的にそれぞれの発表に対してコメントし、その中で多くの人も巻き込まれ、最終的にはコメントで多くの学びを共有できるような環境作りに寄与できたと考えています。

3 活動を振り返って

総じて、何が起こるか予想できない中で、たくさんの濃い経験をさせていただき、普段では得ることのできない様々なことを学べた、ということが率直な感想です。今回の実践での学びが多かっただけでなく、前述のようにこの活動を通してこれまでの自分の活動に更なる価値づけをできたことも、私にとっては大きな意味がありました。また、活動させていただいたのが、世界遺産であり、夢に溢れ人間愛に溢れている子どもたちや、子どもたちを支える素晴らしい先生方がいる屋久島であったからこそ、子どもたちの素直な表現に心を撃たれ、終始楽しみながら大学生である自分とその能力を存分に発揮できたと考えております。ご協力いただいた先生方、改めてこの度はオンラインであるのにも関わらず授業をさせていただき、そしてオンライン授業の実現のためにご尽力いただき、ありがとうございました。授業に参加してくれた児童生徒のみなさん、楽しんでくれてありがとうございました。この授業をきっかけに、屋久島やそこで育った自分自身に誇りを持ちながら過ごせるようになってると嬉しいです。

そして誰よりも、今回私たちに依頼していただき、私たち大学生の屋久島滞在にご尽力していただいた福留先生に最大限の感謝を申し上げたいです。この度は私たちにこのような機会をくださり本当にありがとうございました。屋久島に直接足を運べたからこそ、満足度の高い授業を実施し、ポスターセッションでの運営を任せていただけたと実感しております。前述にあること以上にたくさんのことを学べました。これからもどうぞよろしくお願いします。



「世界遺産学習全国サミットin屋久島での活動を振り返って」

慶應義塾大学環境情報学部2年 長谷部葉子研究会 後藤ひまわり

1、活動概要について

私たち長谷部葉子研究会の学生3名は、長谷部葉子准教授と共に屋久島町を訪れ、2月8日に八幡小学校と神山小学校、2月9日に宮浦小学校と中央中学校でオンラインでワークショップを行った。また、屋久島町内での新型コロナウイルスのクラスター発生によりオンラインでの開催となったサミット3日目のポスターセッションにおいて、場のデザインや進行も行わさせていただいた。小中学校でのワークショップは事前に各学校の担当の先生と共にオンラインでミーティングを行い、学校側からの要望や児童の特徴を踏まえ、長谷部准教授が大枠を作った後、准教授と学生でタイトルや詳細な内容を決めていった。以下は各活動についての詳細である。なお、全ての活動において准教授及び大学生は1人1台のパソコンでzoomに接続している。各活動の説明に先立ち、多くの学校で行われた絵のワークショップについて説明する。

絵のワークショップとは、長谷部葉子准教授が生み出した3枚の絵のワークショップのことである。3枚の絵のワークショップは1つのお題に対して、過去・現在・未来の3つの時間の絵を描くワークショップである。1枚の絵を描く時間は3~5分と短く設定する。これは本当に伝えたい1番の要素を書き出すことを目的としている。描いた絵はグループで共有し、描かれた絵から描いた人の大切にしていることや想いを感じ取り合う。今回のワークショップでは、多くの学校で過去の絵を省略し、現在・未来の2枚の絵のワークショップとしている。

屋久島町立八幡小学校

タイトル「大学生に一緒に紹介しよう! 屋久島ってどんなところ?」

対象児童:3,4年生 開催時間:10:45~11:25

開催形態:1台のパソコンからzoomに接続し、zoomの画面をモニターに表示した。

ワークショップ内容

長谷部葉子准教授より講義 大学生からの自己紹介、屋久島の魅力や自身の故郷の魅力を紹介 児童よりポスターセッションの発表

ポスターセッションの発表を踏まえて、長谷部葉子准教授より総括

ワークショップ作成にあたって

事前の打ち合わせにおいて担当の先生から、子どもたちが屋久島、世界遺産を学ぶことを通して、世界に繋げる、行動、主体的になって欲しい。学習の意義を問い直す機会になったらいいと思っている。というお話があった。これを踏まえて、先生の講義では世界遺産の意味を再解釈するお話があり、大学生からは、外から見た屋久島の魅力や、自身の故郷の魅力を話すことで、子どもたちが世界遺産屋久島で暮らすことを見つめ直すきっかけになるような設計とした。また、4日後にポスターセッションを控えていたことから、ポスターセッションへのフィードバックが欲しいとの要望があったため、この時間も設けた。

タイトル「屋久島を世界へ 世界を屋久島へ」

対象児童:5,6年生 開催時間:11:40~12:20

開催形態:各学年1台のパソコンからzoomに接続し、zoomの画面をモニターに表示した。

ワークショップ内容 長谷部葉子准教授より講義 (ブレイクアウトルーム) どっちが屋久島でしょう?クイズ (メインセッション)



長谷部准教授より総括

ワークショップ作成にあたって

事前の打ち合わせにおいて担当の先生から、消極的な子が多いと伺っていたので、子どもたちにアクティブに参加してもらうにはどうしたら良いか考えて、クイズに答えるときに「右だと思う人は立って、左だと思う人はしゃがもう」など身体を動かしながら答えるようにした。また、海外に興味がある子が多いとも伺ったので、関係性のある留学生も呼んで交流した。

屋久島町立神山小学校

タイトル「大学生と一緒に!屋久島宝探し!」

対象児童:3~6年生 開催時間:14:15~15:45

開催形態:3、5年生は2チーム、4、6年生は1チームとなり、各チーム1台のパソコンでzoomに接続し、zoom画面をテレビに映した。

ワークショップ内容

長谷部葉子准教授より講義

(ブレイクアウトセッション)

アイスブレイク「どっちが屋久島でしょう?」クイズ

2枚の絵のワークショップ ①屋久島での好きな時間、過ごし方、大事なこと ②将来どんな自分になって、どんな屋久島になっていてほしいか

②に関しては、1人1人が発表した後にディスカッションを行い内容を深め、発表者を決めるなどして全体発表へ備えた。

(メインセッション)

2枚目の絵を全体共有

長谷部葉子准教授よりまとめ

ワークショップ作成にあたって

事前の打ち合わせにおいて担当の先生と、社会課題を自分ごと化して欲しい。あるものの素晴らしさに気付き、まずは関心をもつところのきっかけとなるような時間にしたい。郷土を考えることにおいて自身の好きなことから考えることは良いことである。というお話が行われた。この話を踏まえて、上記のコンテンツを行った。初めに、クイズを用いてアイスブレイクを行った。また、ただクイズに答えるだけでなく、クイズの内容(川や山)を踏まえたトークを展開することによって、この後に行われる絵のワークショップの導入とした。クイズの時点で少し屋久島について考えることで、小学生でも3分という短い時間で絵を描くことを容易にする効果を期待した。

屋久島町立宮浦小学校

タイトル「屋久島で当たり前に"生きて"いることの"当たり前"のすばらしさ」

対象児童:6年生

開催時間:10:25~12:25

開催形態:1人1台タブレットを使用し、全員がzoomにアクセスする。

ワークショップ内容

長谷部葉子准教授より講義

(ブレイクアウトセッション)

2枚の絵のワークショップ ①屋久島で好きなことをしている時の状況・情景 ②将来(大人)何をしたいか、何になりたいのかというのを考えた上で、中学校生活をどのように送るかというのを考えるのか、何をしたいのか。 (メインセッション)

1人1人未来への宣言

長谷部葉子准教授よりまとめ

ワークショップ作成にあたって

事前の打ち合わせにおいて担当の先生から、中学入学に向けて自分自身のキャリア形成を考え、今の行いが社会や将来にどのように繋がっていくのかを実感を持ってイメージできる時間にしたいとの要望があった。これを踏まえて上記のコンテンツを行った。ブレイクアウトセッションは、宮浦小学校の先生に児童を3つのチームに分けていただき、1人1人の将来の夢も事前に教えていただくことが出来たので、なるべく関連性のあることを行っている大学生を配置した。全体での宣言タイムを設けることで、全員が声を発することができ、さらに同級生の前で宣言をすることで決意をより強固なものになることを期待した。

屋久島町立中央中学校

タイトル「自分の"好き"をカタチにする、夢を実現する屋久島で生きる」

対象生徒:1年生から3年生の全校生徒

開催時間:14:00~15:50

開催形態:1人1台タブレットを使用し、全員がzoomにアクセスする。

ワークショップ内容

長谷部葉子准教授より講義

(ブレイクアウトセッション)

絵のワークショップ ①自分が好きなこと、屋久島の一押しをあらわそう ②高校を卒業した時に、どんな仕事について、どうやって世界とつながって、どんな屋久島になっていてほしいか

(メインセッション)

長谷部葉子准教授より総括

ワークショップ作成にあたって

事前の打ち合わせの話から、好きな屋久島で好きなことをどのようにしていけるようになるかをテーマにワークショップを作成した。全校生徒が大学生とインタラクティブに交流できるように全校生徒を学年も混ぜて1チーム約8人の20チームに別れて行った。各チーム1人の大学生が加わり、外から見た屋久島の印象も交えながら、屋久島の魅力を認識し、これからの人生で屋久島とどう関わっていきたいかを考えていった。

世界遺産学習全国サミット ポスターセッション

事前に参加する9校のポスターセッションの動画を拝見し、過去→現在→未来、地域→世界へと時間の流れや空間の広がりを意識して順番を決めていった。また、ただ見ているだけでなく、自身がリアクションをしたり、他の学校の児童・生徒や見ている大人たちからの意見をもらえるようにチャットを活用した。さらにチャットではzoomに接続しているパソコンからしか意見を打つことができないため、slidoというサイトを使い、児童・生徒が手元のタブレット端末からも意見を打てるようにした。

2、活動本番までに生じた課題とそれらの解決に向けた取組、発揮したと考える自身の資質・能力について 屋久島でワークショップを行うにあたって1番の課題は、主として活動を行った3人の大学生が誰も屋久島に訪れたことがないということだった。事前の打ち合わせを東京から屋久島の先生方と行いコンテンツを考えていこうとしても、イメージが沸き切らずいまいちピンとこないものばかりになってしまった。そこで、ワークショップを行う前日に屋久島入りをした私たちは、宿について荷解きをするなりすぐにレンタカーを借りて、屋久島半周ドライブに出かけた。宮之浦から八幡小学校まで、途中に宮浦小学校、中央中学校、神山小学校の周辺を見て周り、一緒にワークショップを行う子どもたちがどのような場所で生活をしているのか見て回った。これのおかげでかなりイメージを膨らませることができた。また、屋久島の中でも気候や景色が違うことに気づき、各学校ごとの特色を理解しワークショップに反映することができた。

屋久島で行った5つの活動は全てオンラインで行われた。オンラインで最大限の学びを得られる空間作りは新型コロナウイルスが流行している2年間で長谷部葉子研究会が力を入れて行ってきたことである。今回も含めて意識したことは以下の4つである。

- 1. いつも以上に表情豊かに、大きなリアクションをする。
- 2. チャットを用いて活発な意見交流をする。
- 3. 運営側での徹底的な情報共有をする。

- 3.2. 必要に応じて長谷部准教授と学校の先生と電話でのやりとりをし、全体終了時刻の調整や一部コンテンツの変更も行った。

4. 技術担当を設ける。

- 4.1. zoomのブレイクアウトルームは手動で分けなければならないことや、一度zoomから落ちてしまうとメインセッションに戻ってくることになるのでもう一度ブレイクアウトルームに振り分けなければならない。従って、ブレイクアウトルームに別れずにメインセッションで対応する技術担当を設けた方が良い。今回は大学生の人数の都合上、私が技術担当もしながら、ブレイクアウトルームの進行もしていたが、常にブレイクアウトルームの割り振りページを開いていることでなんとか対応できたが大変であった。
- 4.2. ブレイクアウトルームに割り振るときは、参加者が番号順に並べられるため、名前に前に小文字でチーム番号を記載してもらうことで、スムーズに割り振ることができた。

今回の活動において実感した自分の強みとして、初対面の小学生や中学生相手でも場の空気をほぐしながら進行していくことができたこと、咄嗟の内容変更にも即座に対応する力がついていること、全体やブレイクアウトルーム内をオンタイムで進行することが出来ることを特に実感した。これらの強みをなぜ発揮することができたのか考えると、事前に学校ホームページや資料を読み込み、得られる情報を隈無く集めると共に、イメージトレーニングにかなり力を入れて行ったことが繋がったのではないかと考える。イメージトレーニングは、何パターンかやっておく。しかし、完璧なイメージはするけれどもイメージ通りにはならないという意識を持って、思い通りにいかなくても落ち込まず柔軟に対応する気持ちを強く持って本番に望んでいた。結果としてイメージ通りになることなんてなかったが、予想外のことも起こらなかったため、冷静に対応することができた。

3、活動を振り返って

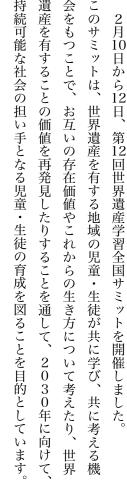
屋久島から神奈川に戻ってきて、何よりも心から離れてくれないのは、屋久島の子どもたちの感性です。苔を触るのが好きな子、屋久島の好きなところは朝日なのに夕日をおすすめしてくれたT君、雨の日が好きなK君に、屋久島の特徴として島の反対側と天気が違うことを教えてくれたMさん。さらに絵の中にはたくさんの屋久島の景色がありました。山を描いたら当たり前に富士山ではなく屋久島の山です。描かれている動物は屋久猿に屋久鹿ですし、釣りをしたら捌いて食べるところまでワンセットです。屋久島の宝は人ですと言って、笑顔を守っていきたいと話してくれた子もいました。このような体験が日常に組み込まれている生活ってどんな生活なのだろう。このような感性を持っている子が育つ場所はどんなところなんだろう。そうして、ここで育った子どもたちはどんな大人になっていくのだろう。知りたいことがどんどん出てきます。屋久島を知るには1週間の滞在では足りませんでした。また、屋久島に行きたい気持ちが募っています。

最後になりますが、このような機会を用意してくださった屋久島町教育委員会のみなさま、八幡小学校、神山 小学校、宮浦小学校、中央中学校の先生方、そして今回の長谷部葉子研究会の屋久島訪問に尽力してくださっ た福留先生、本当にありがとうございました。



COVER — 今月の表紙 — 海洋ごみ問題に取り組む金岳中学校。漂流ごみで作成した SDGs のロゴを 日永良部島出張所に設置し、来島者に呼びかける。(関連記事2~3ページ)

持続可能な社会の担い手となる児童・生徒の育成を図ることを目的としています。 遺産を有することの価値を再発見したりすることを通して、 会をもつことで、 このサミット **2**月 は お互いの存在価値やこれからの生き方について考えたり、 世界遺産を有する地域の児童・生徒が共に学び、 2030年に向けて、 共に考える機 世界



インでつないでの開催となり 島町と全国の参加者をオンラ の影響により、 開催地の屋久

新型コロナウイルス感染症

児童生徒による実践発表

を通して学んだことをこれか れまでの活動の発表や、 八幡小学校の3校の児童がこ 安房小学校、 永田小学校, 活動

いくか宣言しました。 ら自分の生活にどう生かして また、岳南中学校では、 S

ターセッション形式で全国 去・現在・未来」 DGsの17の目標を基に まとめたことをポ の観点から 過

参加者へ発表しました。 活動報告を通じた交流

意 * ESD … 持続可能な開発のための教育

校との連携などを紹介し、

見交換を行いました。

参加した全国の教育関係者

ドバイザー

の実践の紹介や学

イザーやESDグローバルア 本町が委嘱するESDアドバ れまでの活動を報告した後、

interview / サミットに参加して



れ

充

実した交流会となりました。 から多くの質問が寄せら

岳南中3年 井上 楓さん

今回発表をした「1×2×3 次産業」は全国的にも知名度 が低いと思うので、この発表 で終わらず、しっかりと屋久 島で広めて全国に展開されれ ば、日本の農業はもっと良く なると感じました。世界遺産 としてだけでなく、他の分野 についても屋久島のことを広 めていきたいです。



報告しました。各学校からこ

|屋久島型ESD*」の活動を

本町の特色を活かした学習

か月に一回はまそうじきする

安房小4年 門屋 七海 さん

奈良市の小学校と行ったゴミ の調査の授業では、屋久島の 海や川に落ちているゴミをボ ランティアの方が掃除してい ると知りました。屋久島に来 た外国の観光客にも伝わるよ うな「ポイ捨てをしないで」 というポスターを作るなど、 「プラスチックゴミのない屋 久島」を目指したいです。



永田小4年 杉村日呂人 さん

今回の学習で、生き物たちと 海の生き物、そして私たちの 生活とつながっていることを 学び、水の大切さを考えるこ とができました。 多くの生き 物といっしょに生きていける ように、まずは歯みがきの時 に使う水の量から気をつけて いこうと思います。



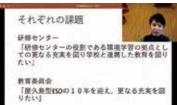
八幡小4年 渡邊 美逢 さん

2

他県との交流も深まり、その 中で私が心に残ったことは、 ごみを使ってレコードを作っ ている学校があったことで す。ごみをリサイクルするの で、ごみが捨てられずにすむ なと思いました。だから私も、 これまでの学習を生かして、 ごみ拾いとかを積極的にして いきたいと思います。

1 行動宣言 2 「児童婚」 についてポスター セッションをする岳南中生徒 3他校の発 表に質問をする安房小児童 4 「1×2× 3次産業」についてポスターセッションを する岳南中生徒 5他校の参加者に発表を する八幡小児童 6他校の参加者の発表を 視聴する永田小児童 7金岳中生徒が口永 良部島海岸の漂流物で作成した SDGs の口 ゴ 8海の美しさを守るための取組を紹介 する金岳中生徒 9 ESD 実践家としての 活動を発表するアンドリューさん 10全国 高校生自然環境サミットを通した学びにつ いて発表する屋久島高校環境コースの生徒 III ESD アドバイザーとしての活動を発表す る福元さん 12チャットを活用した意見交 換の様子 13記念講演をする慶應義塾大学 准教授の長谷部葉子さん





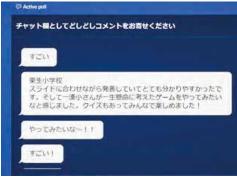


SUSTAINABE

FI OPRIE

金岳中





みに繋がるサミットになっ 交換を通じて、 参加 著は、 実践 今後 《発表や意見 0 取 ŋ

組

授の長谷部葉子さん (世界) を考える」 こ屋久島からこれからの未来 の演 から 題

岳中 に取り は、 は人間がどうにかしなくて 最後に、 けない」と海洋ごみ間 いて発信しました。 海洋プラスチックごみ問 人間が作り出したごみ 組 校 む当事者として、 慶應義塾大学准 年 . О 貴舩桃さ À 金 題

中学校 上がりとなりました。 ヤツ 取 り組みの良いところ トで伝え合い、 の子どもたちが、 大盛り

スター る発表などを行いました。 チ ヤ からの提案でオンライン セッ ッ 慶應義塾大学研究ゼ ト機能を活用したポ ションを実 施。

全国各地の事例を共有 内外の教育関係者、 屋久

島高校環境コースの生徒によ

Information / ご案内

■ 紙面に掲載できなかった参加者 のコメントや本サミットの詳細は、 町ホームページに掲載しています。 ぜひ、ご覧ください。

から求められる人材とはどん

れまでの経験を基に、

な人材なの

か、

講演

1/2 ・ただき



- 本サミットのテーマソング『 incomplete 』 は、町内在住のミュージシャン岩切芳郎さんに、 作詞・作曲していただきました。今後、屋久島 SDGs のテーマソングとして活用していく予定で す。音源の提供を希望される場合は、町教育委員 会までお問い合わせください。
- 圆 町教育委員会 教育総務課 ☎ 43-5900



金岳中教諭 徳永 亜美 さん

本校は他県からの留学生が多 く、島で生まれ育ったからわ かること、留学生だから気付 けることなど、それぞれが意 見を出し合い活動したからこ そ、本校にしかできない取り 組みができたと思います。改 めて島の自然の美しさと貴重 さに気付くことができました。



金岳中3年 二神 琉泉 さん

サミットに参加して、海で泳 いだり、魚を捕ったり、豊か な自然の中で生活できている ことは当たり前ではないこと を実感しました。これからも プラスチックやごみをしっか りと分別して海や川、山など にゴミを捨てないようにした いです。

学校/学年/氏名		感想
	金岳中学校1年 貴船 桃	発表前はだいぶ緊張して、お腹が痛くなりましたが、友達や先生が「桃なら頑張れる」と励ましてくれたので、最後まで発表をすることができました。私は「人間が作り出したゴミは人間がどうにかしなくてはいけない」と考えています。その思いが今回の発表をきっかけに、少しでもたくさんの人に伝わってほしいと思います。来年は二年生になるので、一年生を引っ張るとともにさらにSDGsについて詳しくなりたいです。
	金岳中学校2年 石川 ももな	本番まで波が高くて屋久島に渡れないのではと心配でしたが、会場で発表をすることができてよかったです。パワーポイントの操作も一つ一つ確認しながら操作したので間違いなくできました。去年からこの活動を続けてきましたが、これからもSDGsについてもっと勉強をし、海をきれいにするための活動をしたいと思います。私たちの発表を見て一人でも多くの人が「自分にできることは何だろう」と考えてもらえたらうれしいです。
	金岳中学校3年 二神 琉泉	世界遺産学習全国サミットに参加することで、工夫された取組が全国で実施されていることを知りました。また、海で泳いだり、魚を捕ったり、豊かな自然の中で生活できていることは当たり前ではないことを実感しました。今回、僕たちも海洋ごみについて発表する機会をいただき、とてもいい経験となりました。これからもプラスチックやごみをしっかりと分別して海や川、山などにゴミを捨てないようにしたいです。
	金岳中学校教諭德永 亜美	今回は、貴重な機会をいただき、ありがとうございました。本校は他県からの留学生が多く、地元で生まれ育った生徒は2人しかいません。しかし、この島で生まれ育ったからわかること、留学生だから気付けることなど、それぞれが意見を出し合い、活動をしたからこそ、本校にしかできない取組ができたと思います。今回改めて口永良部島の自然の美しさと貴重さに気付くことができました。ご協力いただいたすべての皆様に感謝いたします。
	_{永田小学校4年} 杉村 日呂人	今回の学習で、海外では、苦労して水くみをしている子どもがいることや、永田の川には、生き物がたくさんいて、その生き物たちと海の生き物、そして、私たちの生活とつながっていることを学び、水の大切さを考えることができました。 これまでの水の使い方では、生き物のすみかをうばっていたかもしれないので、多くの生き物といっしょに生きていけるように、まずは歯みがきの時に使う水の量から気をつけていこうと思います。
	岳南中学校1年 岩川 真寛	今回私達は、児童婚について調べました。その中で初めて知ったことは、児童婚で結婚している子供が1億2500万人で日本の人口と変わりがなかったことです。また、今回の発表で感じたことは、リモートというかたちでしたが他県の人達と一緒に学習ができてよかったと思っています。来年は、現在起こっている問題や改善点を調べて今年よりもっといい発表をできるように頑張りたいです。

学校/学年/氏名		感想
	岳南中学校教諭 長 嶺 剛	本年度から三年間を見通した学習となり、さらに岳南中アドバイザーとして杉下真絹子先生をお招きして、より深みのある学習へと進化してきました。十月に行ったポスターセッションを経て二月のサミットに臨みましたが、発表の内容や方法について見直し、意識をさらに高めたことにより、積極的に質問する生徒の姿が見られるなど次年度へ繋がる活動になりました。
	岳南中学校2年 吉村 海慧	「安全な水とトイレを世界中に」このテーマについて、最初から具体的な考えがあったわけではなかったが、調べてみると本当にいろんな歴史や問題点が出てきた。さまざまな経緯やドラマがあることを知り、処理方法のバリエーションについても学んだ。1回目の発表を経て、出た反省点をもとにより深く調べ、満を持してサミットに臨んだのであった。
	岳南中学校3年 井上 楓	ポスターセッションを通して、学ぶこともあれば、屋久島について知らないことも沢山あった。今回発表をした「1×2×3次産業」は全国的にも知名度が低いと思うので、この発表で終わらず、しっかりと屋久島で広めて全国に展開されれば、日本の農業はもっと良くなると感じる。また、配信の中で京都府の方から、「屋久島ではどのような作物があるのか」と問われたので、世界遺産としてだけではなく、屋久島の事を広めていきたい。
	岳南中学校教諭 伊藤 和輝	昨年度に取り入れたポスターセッションの課題から、今年度は学年ごとに各ターゲットにおける着目点を明確にし、まとめの方向性を示すことができ、より濃く充実した学習になったと感じます。アドバイザーの杉下先生からの助言を参考にしながら、生徒自らで問題提起、分析、提案と段階を踏み、よりよい伝え方を考えて発表ができました。SDGsや屋久島の諸課題を軸に、大きな気付き・学びが生まれ、今後の活動にさらに期待が持てるよい機会となりました。
TO STATE OF THE PARTY OF THE PA	岳南中学校 原崎 森羅	僕は、「世界遺産学習全国サミット」という大きな舞台で、自分の好きな苔をテーマした発表ができて、とても嬉しかったです。発表に向けて、先生方や友だちの協力をもらいながら作った力作だったので、発表を終えたときはとても達成感を感じました。今回の発表で僕が一番伝えたかったのは、発表テーマでもある「苔の魅力」についてです。総合的な学習の時間を通して苔について深く調べることで、屋久島と世界の環境問題が関連することに気付くことができました。また、他校の発表では、屋久島の自然や生き物を題材にした発表を通して、自分の考え方が広がり、とても勉強になりました。自分が興味を持っていることについて、地球規模の様々な問題と関連付けて考えてみることで、新たな発見ができることを、今回の活動を通して実感できたので、この考え方をこれからも大切にしていきたいです。
	八幡小学校4年 渡邊 美逢	安房小、永田小の発表は、私たちがしていない色々な学習をしていました。いい考えをたくさんもっていてすごいなと思いました。また、他県との交流も深まり、その中で私が心に残ったことは、ごみを使ってレコードを作っている学校があったことです。ごみをリサイクルするので、ごみが捨てられずにすむなと思いました。だから私も、これまでの学習を生かして、ごみ拾いとかを積極的にしていきたいと思います。

私はたんかんを育てるお手伝いをさせてもらう中で、自然の力を使ってたんかんを育て ることは素晴らしいことだと感じました。なぜなら、他の地域では甘いたんかんを育てる ためにたくさんの肥料を使うと考えられますが、栗生は海が近いことでミネラル豊富な潮 栗生小学校 風がやってくることや日当たりもいいなど、たんかんを甘くする自然条件がそろっている 中島 佑季 ので、むだなエネルギーはあまり使っていないことが分かりました。これもSDG s の13 番「気候変動に具体的な対策を」に関係すると思いました。たくさんのことが学べたたん かんづくり。関わってくださった方々に感謝です。 (渡辺) 今回のSDGSの学習を通し、豊かな屋久島や美しい自然環境を、改めて僕たち の手で守っていきたいと思いました。 安层中学校 (緒方) 学習していく中で、食べ残しや道に落ちているゴミにも目がいくようになり、こ 渡辺 惺風 れからの屋久島の自然について、深く考えるようになりました。 緒方 謙心 (小路口) 発表を通して、小さな積み重ねが1番大切だと伝えたかったです。私も牛乳 小路口真華 パックやトレーのリサイクル等、積極的に行うようになりました。 喜 映月 (喜) オンラインでの発表は、相手の顔が見えなかったので新鮮に感じましたが、やはり 直接聞いてもらいたかったという思いがありました。少し残念でした。 ぼくたちは、民具倉庫を管理している黒飛さんから稲をいただいて、苗を植えて、初め て学校で米作りをしました。田車やがんづめ、千歯こきなどの伝統的な農具を使って楽し かったです。他の学校では、ウミガメの放流をしているのを知りすごいと思いました。ツ 八幡小学校5年 マベニチョウの栽培を学校でやっているのもすごいです。伝統的なおどりを地域の人に教 泊 蓮央 えてもらい学校でしているのもすごいと思いました。地域ごとにいろんな活動をしている ことがよく分かりました。 この度の実践で、町内の学校、他県の学校、有識者の方々、地域の方々といった、様々 なつながりを大切にしました。そのつながりの中で、子ども達の学びは広がりや深まりを 八幡小学校教諭 もつことができ、持続可能な社会の担い手としての力を育むことができたと思います。ま た、今回の実践の中で印象深かったことは、子ども達の力で鹿肉給食を実現させたことで 橋口 和真 す。子どもも大人も一緒になって、世界の課題を解決していく可能性を見出すことができ ました。 私は世界遺産学習サミットin屋久島のポスターセッションに参加しました。総合的な学 習の時間に宮之浦の伝統芸能である宮之浦おた踊りに取り組み、感じたことを友達と発表 宮浦小学校 しました。発表をする前にみんなで取り組みをふり返り、おた踊りのすばらしさにもう一 斉藤 聖愛 度気付くことができました。私たちにできることは、このすばらしい宮之浦おた踊りを引 き継いでいくことです。これからも学んだことを忘れずに過ごしていきたいです。

永田小学校教諭

吉冨 祐子

す。

今年度「水のつながり」の学習を通して、これまでの活動を相互性の観点から捉え直し 実践することで、児童が身近な自然の素晴らしさに気付き、課題設定、課題追究を行い、

最後は自分たちの生活に戻すことができました。また、これまでにない多くの方の前で発 表をやり遂げたことで児童も教師も成長することができました。今後もこのつながりを広

げ、児童が課題意識をもち行動することのできる能力を育成していきたいと考えていま

学校/学年/氏名		感想
	^{永田小学校6年} 牧内 みのり	私は、ポスターセッションに参加して、いろいろな小学校のみりょくや屋久島のみりょくを知ることができました。私たちの小学校では、ボスターセッションを通して「永田の豊かな自然」や「温かい人々がいる永田という地域のよさ」を伝えたかったところ、チャットを見ていると、ちゃんと伝わっていたようだったのでよかったです。リモートのよかった部分は、チャットを使ってリアルタイムで会話ができたことです。会場だったら、そのように会話もできないので、いろんな人の意見を手軽に知れたからよかったです。
	小瀬田小学校 飯島 空	世界遺産の島,屋久島について、島内の学校がそれぞれ調べたことを、発表の仕方を工夫して伝えてくれました。苔のこと、伝統芸能のこと、米作りのこと、ぽんかんやたんかんのことなど、改めて屋久島のすばらしさに触れることができてとても勉強になりました。ぽくたちは、ツマベニチョウの生態や特徴について発表しました。もっとツマベニチョウについて調べて、詳しくなりたいと思います。そしてみんなで屋久島の自然を守っていきたいです。
Gardy School Public	神山小学校 鎌田 琉聖	5月に種子島の増田小とリモート授業をしたとき、屋久島のことを聞かれました。でも、答えられないことばかりでした。遠足で屋久杉館に行ったり、ガイドの先生に神山小や公園の自然についてたくさん質問したりして、屋久杉やヒリュウシダ、ツマベニチョウのことを知りました。屋久島の自然がもっと好きになりました。今、ぼくは「自然のみカマップ」を作っています。み力をたくさんの人に知ってもらいたいからです。いつか、たくさんの人にみ力を伝えるガイドになりたいです。
	安房小学校教諭 窪田 あずさ	この全国サミットを通して、奈良市の先生方をはじめ、屋久島町ESDグローバルアドバイザーの杉下先生、研修センターの福元先生など広い地域のたくさんの先生方と出会うことができました。このことは、私の教員生活にとっての宝物になったと思います。これからも全国サミットを通して培うことのできたことを生かして児童と共に、SDGsについて学び続けたいと思います。このような機会を与えてくださり、ありがとうございました。
	_{安房小学校} 4年 門屋 七海	奈良市平城小の新宮先生と一緒に授業をした時に、ゴミの調査をすることになりました。ゴミ調査をした結果、屋久島の海や川にもゴミが落ちているけど、大人の人がボランティアで掃除をしていることが分かりました。屋久島にも外国の観光客の方がいらっしゃるから、外国の方にも伝わるように、私の個人目標は「外国の方にも分かるようなボイ捨てをしないでというポスターを作る」としました。この全国サミットがあったことでこのような目標ができました。これからも「プラスチックゴミのない屋久島」を目指したいで

Ⅲ その他

屋久島型ESD

屋久島町教育委員会

1 持続発展教育(ESD)とは

Education for Sustainable Development = 持続可能な発展のための教育(持続発展教育)

今,世界には環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な問題がある。ESDとは、これらの現代社会の課題を自らの問題としてとらえ、身近なところから取り組む(think globally, act locally) ことにより、それらの課題解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動である。

ESDとは持続可能な社会づくりの担い手を育む教育である。

- 2 ESDを進めるに当たっての観点
 - ◇ 人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育むこと
 - /→ 自尊感情の育成(自信と誇り)
 - ◇ 他人との関係性,社会との関係性,自然環境との関係性を認識し,<u>「関わり」,「つな</u> がり」を尊重できる個人を育むこと。

/ → <u>学び,考え,行動する力の育成</u>

この2つの観点で進めるためには、環境、平和や人権等のESDの対象となる様々な 課題への取組をベースにしつつ、環境、経済、社会、文化の各側面から学際的かつ総合 的に取り組むことが重要になる。

3 屋久島型ESDの進め方 ※ 基本的な考え方

屋久島を持続可能な社会にするために、世界自然遺産を素材にした学習をとおして、直接体験(自然、文化等)と地域の人とのつながりから、「学び、考え、行動する力」と「自尊感情」を高め、「生きる力」を育成する。

[実践内容例]

総合的な学習の時間をESDの視点での組み直し

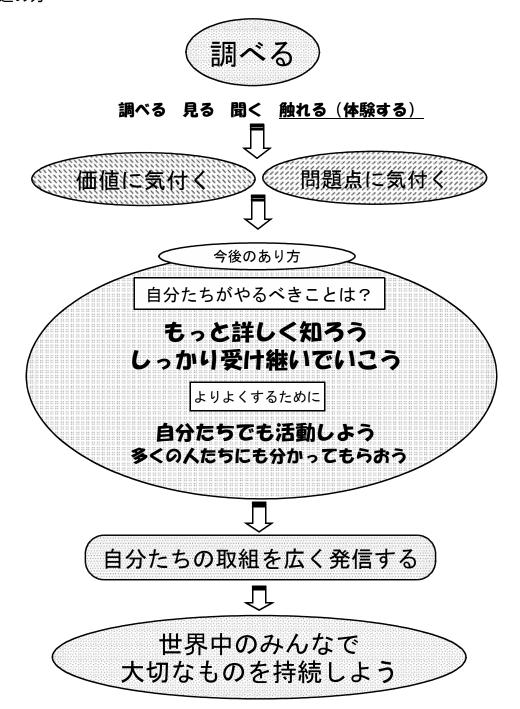
- → [Keyword] さまざまなつながり
 - ・ 地域での体験活動の重視
 - 地域の人とのつながりの重視

各教科の時間と総合的な学習の時間とのつながりの明確化

- → [Keyword] 「<u>Think Globally</u>, <u>Act Locally</u>」(地球と地域の課題のつながり *1 *2 の理解)
- *1 各教科等で地球規模の課題を学ぶ。
- *2 地域で行動を起こす。
 - ・ 各教科, 道徳, 外国語活動, 特別活動との横断的なつながりの重視 (ESDカレンダーの作成)

- (1) 基本(ESDの概念は広範であるが、屋久島では2つのことに特化する)

 - ア <u>環境教育</u> を取り入れる ~ 世界自然遺産(豊かな自然) イ <u>伝統文化</u> を取り入れる ~ 屋久島の人々が築いてきたもの
- (2) 進め方



- ※ 各教科等(社会,理科,道徳,総合的な学習の時間等)の1単元をESDの手法で 行い, まとめる。
- ※ 少なくとも1年間の中で、1単元は実施する。

ESD(持続可能な開発のための教育)推進の手引(初版) より抜粋 平成28年3月 文部科学省国際統括官付 日本ユネスコ国内委員会

1 学習指導要領にも盛り込まれているESDの視点

ESDは、現行の小・中・高等学校等の学習指導要領の中には、持続可能な社会を形成するための視点が盛り込まれています。すなわち、全国の小・中・高等学校において、各教科、総合的な学習の時間、道徳、及び特別活動を通じて、持続可能な社会の構築に向けた教育が行われています。これを効果的に行うためには、学校全体として、計画的に実践することが必要です。それには、「持続可能な社会の構築」という観点を意識した児童・生徒の変容を引き出すことが重要です。

ESDは、現行の学習指導要領にもその視点が含まれていますが、「持続可能な社会の構築」という観点を意識することにより、児童・生徒の意識の変容を引き出すことができると考えています。

2 ESDによって育む能力・態度

ESDの視点に立った学習活動を行うためには、国立教育政策研究所が提示した次の6つの構成概念(例)も参考とし、自分が行っている授業が、これらの構成概念のうちでどの概念の理解を深めるものとなっているかを考えることが、ESDを実践していく上で手がかりになります。

- 持続可能な社会づくりの構成概念(例)-

Ⅰ 多様性(いろいろある) Ⅳ 公平性(一人一人大切に)

Ⅱ 相互性(関わり合っている) V 連携性(力を合わせて)

Ⅲ 有限性(限りがある) Ⅵ 責任性(責任を持って)

ESDでは、持続可能な社会構築のための実践を目標の一つとしていますが、学校において、その目標を達成するためには、具体的にはどのような能力・態度を育成する必要があるのでしょうか。一つの参考として、国立教育政策研究所の「学校における持続可能な開発のための教育(ESD)に関する研究[最終報告書]」(平成24年3月)において例示されている「持続可能な社会づくりの構成概念」(例)及び「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」(例)も参考にしながら、各学校で決めることが大切です。

そこで提示された7つの能力・態度(例)を参考に、地域の実情や児童・生徒の発達 段階に応じて、取捨選択したり、アレンジを加えたりしていくことが最初のステップと して有効です。例えば、以下の能力・態度(例)を踏まえ、ESDのねらいを分かりや すくするために、①問題解決能力②協力する態度③意欲的に活動する、の3点に絞って いる学校もあります。

- ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度(例)-
- ① 批判的に考える力
- ② 未来像を予測して計画を立てる力
- ③ 多面的・総合的に考える力
- 4 コミュニケーションを行う力
- ⑤ 他者と協力する力
- ⑥ つながりを尊重する態度
- ⑦ 進んで参加する態度

更に、「我が国における『国連持続可能な開発のための教育の10年』実施計画」においても、育みたい力として、問題や現象の背景の理解、多面的かつ総合的なものの見方を重視した体系的な思考力、批判力を重視した代替案の思考力、データや情報を分析する能力、コミュニケーション能力、リーダーシップの向上が挙げられています。

3 現在の教育課題に対応し、その解決に貢献するESD

現在の学校現場は、生徒指導上の諸問題や学力の向上、地域に開かれた学校経営など、様々な教育的な課題に直面しています。先生方はその対応に追われながらも、解決に向けて不断の努力を積み重ねています。これまでESDに取り組んできた学校からは、ESDが、児童生徒の心の発達や自己肯定感の醸成に寄与することや、主体的・協働的に学ぶ力を高めること、学校と地域との連携を促進することなど、現場が抱える教育の諸課題の解決に大きく役立ったという報告が寄せられています。このようにESDを、教育課題の解決や教育改革の方向性及び方策の1つとしてとらえることも重要な視点です。

以上のような、様々な観点を踏まえ、学校現場における学習活動を整理することも 重要です。

4 ESD関係リンク集

日本ユネスコ国内委員会

http://www.mext.go.jp/unesco/index.htm

ESDポータルサイト

http://www.esd-jpnatcom.mext.go.jp/

ユネスコスクール公式ウェブサイト

http://www.unesco-school.mext.go.jp/esd

同・教材ルーム

http://www.unesco-school.mext.go.jp/materials.edu/

ESD推進のためのユネスコスクール宣言

http://www.esd-jpnatcom.jp/conference/result/pdf/Aichi-Nagoya_Declaration_school_ja.pdf

ユネスコスクール支援大学間ネットワーク

http://esd.okayama-u.ac.jp/ASPUnivNet/

Global Action Programme on ESD

http://en.unesco.org/gap

ユネスコ本部GAP クリアリングハウス

http://en.unesco.org/gap-esd-clearinghouse

UNESCO World Conference on ESD

http://www.unesco.org/new/en/unesco-world-conference-on-esd-2014

国連持続可能な開発のための教育の10 年関係省庁連絡会議

http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokuren/index.html

国連持続可能な開発のための教育(ESD)ー外務省ホームページ

http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kankyo/edu_10/10years_gai.html

環境教育·ESD(環境省)

https://edu.env.go.jp/

+ESDプロジェクト(環境省)

https://www.p-esd.go.jp/top.html

Regional Centre of Expertise on ESD(RCE:ESDに関する地域拠点)(国連大学)(英語)

http://www.rce-network.org/portal/

ESD活動支援センター

http://esdcenter.jp/

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター

http://www.accu.or.jp/jp/index.html

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

http://www.unesco.or.jp/

特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議(ESD-J)

http://www.esd-j.org/

5 参考資料·教材

学校における持続可能な発展のための教育(ESD)に関する研究(国立教育政策研究所) http://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/esd_saishuu.pdf

今日よりいいアースへの学び:持続可能な開発のための教育(ESD)とユネスコスクール(文部科学省)

http://www.mext.go.jp/unesco/004/_icsFiles/afieldfile/2015/05/18/1339977_01_1.pdf

ESD QUEST(きみが世界を救う!)(文部科学省)

http://www.esd-jpnatcom.mext.go.jp/pdf/ESDQUESTstorybook.pdf

ユネスコスクールとESD(文部科学省)

http://www.unesco-school.mext.go.jp/TEMP/?action=common_download_main&upload_id=8900

2014 年ユネスコスクールESD優良実践事例集(文部科学省/日本ユネスコ国内委員会) http://www.unesco-school.mext.go.jp/TEMP/?action=common_download_main&upload_id=8509

ユネスコスクールの今~ひろがりつながるESD推進拠点~(ACCU)

http://www.unesco-school.mext.go.jp/aspnet-events/?action=common_download_main&upload_id=8812

STOP THE 温暖化ー緩和と適応へのアプローチ2015(環境省) http://www.env.go.jp/earth/ondanka/stop2015/stop2015_full.pdf

ESD環境教育プログラム(環境省)

https://edu.env.go.jp/esd/

国際理解教育実践資料集(国際協力機構〈JICA〉)

http://www.jica.go.jp/hiroba/menu/education/index.html

実践記録集 世 界 自 然 遺 産 に 学 ぶ 屋 久 島 の 教 育 -SDGs 達成に向けた屋久島型ESD教育の取組-2021年度Ver-

第12回世界遺産学習全国サミットin屋久島報告書

令和4年3月発行



発 行 者 屋久島町教育委員会教育総務課

〒891-4292

鹿児島県熊毛郡屋久島町小瀬田849番地20

電話 0997-43-5900

FAX 0997-43-5905